教　養　科　目

大学での創造的学び（For the Prospective Master Students）田中佳子、福地俊夫

全学科 教養科目（人間系）
1年 春秋学期 1単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
この授業では、大学の様々な授業で必要とされる、基本的で一般的な「学習方法」について学んでいます。大学における学習は、高校までの学習とはかなり異なっています。きちんと基礎となる技法を学んでいるかどうかによって、他の授業を同じように受講しても、理解度にも差が生じ、その結果として興味や関心を持てるかどうかもかなり違ってくるはずです。この授業は、「大学で興味深く、積極的に、楽しく学ぶ」ということを実現するための援助をすることを目的としています。

【成績評価】全回のノートを冊子にして提出。この冊子をもって評価する。

【テキスト】
全回出席するとできあがる。

【参考図書】京都大学溝上慎一著『大学生の学び・入門』有斐閣アルマ（２００６）

【準備学習】本学のさまざまな情報が書かれている授業計画・学生便覧をよく読んでおくように。そのことで授業での課題が進めやすくなる。

【授業計画】
1 授業を聞く前に
2 授業と講義の違い
3 どんなふうに聞く
4 どんなことを意識する
5 何をノートにとるか
6 自分を振り返る
7 考えてみよう【テーマ別講義】
8 テーマ別講義の聞き方
9 テーマ別講義のノートテイキング
10 テーマの整理
11 問題点の洗い出し
12 テーマを振り返る
13 テーマとは何か
14 考えるということを考える
15 まとめの冊子つくり

【備考】
授業中もすべて辞書の使用可。携帯の辞書、ノートPCの使用も可。

考える技術と書く技術（Fostering Academic Literacy）田中佳子

全学科 教養科目 (人間系)
1年 秋学期 2単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
日本語はあなたにとって『考えるための道具』、つまり「日本語を鍛えることは、脳を鍛えること」です。さまざまな視点から、思考力を鍛え、表現力をつけるために、試行錯誤を繰り返します。へこたれない力をつけましょう。難しいものを単純にし、何がわからないのか、何がわかるのかを整理します。伝えたいことを理解して、わかりやすい表現でまとめるテクニックを身につける下地を作ります。まず、「ワンピース」(尾田栄一郎作)を読んで日本語力を鍛えましょう。

【成績評価】
授業の中での課題とレポートで評価する。

【テキスト】
参考図書などから適宜配付する。

【参考図書】西林克彦『わかったつもり：読解力がつかない本当の原因』光文社新書222（2006）

【準備学習】毎回、次回の授業の方向性を確認する。その内容に沿った学習をすること。また、日常生活でのさまざまな日本語表現に耳を傾けておくこと。

【授業計画】
1 考える道具としての言語
2 「これは何ですか」の意味は?−言語の機能−
3 「今どこ?」メールの意味−高コンテキスト言語−
4 「ほとんどの建物はよく遮蔽されている」−スキーマ−
5 「仏教の○はキリスト教では△」−先行オーガナイザ−
6 「新聞の方が雑誌よりいい」−スキーマの活性化−
7 「ワンピース」を読もう−トップダウン処理−
8 「海賊とは」−宣言的知識−
9 「ルフィは仲間を愛する」−意味ネットワーク−
10 「ひとつなぎの大秘宝」−フレームとは−
11 「ナミはどう操縦するか」−手続き的知識−
12 「ゴーイングメリー号の修繕」−問題解決−
13 「麦わら一味」−暗喩と直喩−
14 わかるという方法
15 わからないという方法

【備考】
「日本語のなぞを探る」ちくま新書などを読んでおくといい。

日本での生活と学習（Life and Study in Japan）寺尾裕、呉志良、劉雯、倉本幸弘

全学科 教養科目（人間系）
1年 春秋学期 1単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
言葉や文化、生活習慣の違いなどの理由から大学生活がスムーズに送れるだろうかという留学生たちの不安を解消するために設けた科目である。履修や単位の取得方法、講義や実験などの受け方、更には奨学金の申し込み方法やキャンパス内諸施設の有効利用、日本人の先生や学生たちとのコミュニケーションなども含めた指導を行い、効果的で有意義な大学生活を過ごすことを目指す。なお、教員と学生、または学生同士の連絡網を作り、個別指導・生活指導を行う。

【成績評価】
授業態度他

【テキスト】
プリントなど

【参考図書】

【準備学習】
テレビ、新聞などで日本について調べること。

【授業計画】
1 履修の仕方と個別指導
2 単位取得への認識
3 生活指導
4 日本人と付き合う方法
5 自分自身について考える
6 大学内施設の利用方法
7 ＬＣセンターなどの利用方法
8 印刷物からの情報収集の方法
9 インタビューによる情報収集の方法
10 奨学金面接の受け方
11 大学における勉強の仕方
12 依頼や報告の仕方
13 自主学習と生活能力の向上
14 最近の時事ニュース
15 生活習慣と学習態度の再確認

【備考】

歴史学Ⅰ（History I）西村敏也

全学科 教養科目（人間系）
1 年 春学期 2 単位（週 1 時限）選択科目

【授業の目標】
人々の営みは連綿と続いている。日々小さな工夫を積み重ね、大きな課題に直面しては決断して解決を図ってきた。現在の私たちは、その成果を享受している。現在は過去から未来への一瞬に過ぎない。成果を生むに至った経過への理解は、私たちが今を、明日を生きる上で欠かせない。理解せずに現実を把握することは難しい。この講義では、わが国の現代に至る事象のうち、注目したい現象を取り上げ、その背景、経過、評価を紹介する。

【成績評価】
期末試験

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】
当該部分について予め学習しておくこと。

【授業計画】
1 狩猟時代の生活と技術
2 仏教の伝来と神仏信仰
3 律令の国家建設
4 古代の生活と技術　都城と住宅
5 武士の登場と武家政治の展開
6 中世の文化　中国文化の定着
7 中世の生活と技術
8 江戸幕府の体制
9 城郭と都市
10 数奇の文化
11 近世の生活と技術
12 明治維新と国家の体制
13 欧米文化の学習と伝統文化
14 第二次世界大戦
15 経済の復興・発展と現在

【備考】

歴史学Ⅱ（History Ⅱ）西村敏也

全学科 教養科目（人間系）
1 年 秋学期 2 単位（週 1 時限）選択科目

【授業の目標】
外国の人々が我が国に入ってくる国際化ばかりでもなく、我々も海を渡り、陸を伝って交流してきた。その際、互いの文化を尊重し、理解することは欠かせない。その理解の中から、新しい発見が生まれる。私たちが学んでいるのは、世界の諸民族が築き上げた成果、学問である。私たちは、その成果を享受している。この講義では、アジア、ヨーロッパ、アメリカなど世界の諸地域における、古代から現代に至る事象のうち、将来の足がかりになる現象を採りあげ、紹介する。

【成績評価】
期末試験

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】
当該部分について予め学習しておくこと。

【授業計画】
1 日本・東アジアの交流
2 東アジアの文化
3 東アジアの諸国と版図
4 東アジアの現代
5 東南アジアの王朝と文化
6 東南アジアの現代
7 南アジアと世界
8 南アジアの文化　ヒンドゥーの世界
9 古代ローマ　環地中海社会の形成
10 ヨーロッパ　ルネサンス
11 ヨーロッパの近代　産業革命
12 ヨーロッパの現代　環境の保全
13 アメリカ大陸の歴史　移民と原住民の生活
14 アメリカ大陸の文化　工業化社会の可能性と限界
15 歴史的環境保全の現在

【備考】

日本事情Ⅰ（General Condition of Japan Ⅰ）寺尾裕、呉志良

全学科 教養科目（人間系）
1 年 春学期 2 単位（週 1 時限）選択科目

【授業の目標】
人は、思い描いた科学技術の進歩･未来を「夢」という言葉で表現してきた。夢を持って努力することは人生を生きていくうえで、大事なことの一つである。科学技術に夢を持つ人間としての在り方や生き方について日本の自然環境と社会環境の中で考える能力を育成することを目的とする。この講義は留学生向けで複数の教員によって担当し、多彩な内容の講義が繰り広げられる。個別指導・生活指導等も行う。

【成績評価】
レポート

【テキスト】
プリントなど

【参考図書】
『日本社会再考』北星堂書店（1992・4）

【準備学習】
テレビ、新聞などで日本について調べること。

【授業計画】
1 イショク足りて礼節を知る
2 キャッシュレス時代
3「3高」と出生率の低下
4 女性と差別
5 ベビーシッター
6 真夜中のいたずら電話
7 日本人もセイタカノッポに
8 車内広告は語る
9 宅配便システム
10 社会の産んだ「ニュービジネス」
11 ごみ処理
12 使い捨て
13 便利そうで不便
14 日本の環境問題
15 自国の環境問題

【備考】

日本事情Ⅱ（General Condition of Japan Ⅱ）寺尾裕、呉志良

全学科 教養科目（人間系）
1年 秋学期2単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
いつの時代も夢と情熱を持って挑戦し続ければ、必ず時代を切り拓くことができるのである。母国から日本へ、日本から世界へと、21世紀の社会を自由に翔ぶことを考える時、そこには日本の社会でいかに生きていくか、どのような役割を果たしていくかについてのガイダンスは必要不可欠である。エコ・環境面を中心に話を進め、実生活の中で気をつければ出来る温暖化対策などの話題も提供し考えさせる。個々の留学生の未来にむけて、考える能力を育成すべく個別指導・生活指導も行う。

【成績評価】
レポート

【テキスト】
プリントなど

【参考図書】
『日本社会再考』北星堂書店(1992・4)

【準備学習】
テレビ、新聞などで日本について調べること。

【授業計画】
1 割り箸
2 インスタントラーメン
3 食糧は輸入に頼るのみ
4 より高く、より深く
5 東京一極集中
6 やっと週休二日制
7 社会を変える若者たち
8 人手不足倒産と外国人労働者
9 日本は文化国家
10 生まれ、死ぬ場所
11 三種の神器
12 「アメリカ、アメリカ」
13 「三角ベース」と少年野球
14 ２DK
15 環境問題について考える

【備考】

心理学Ⅰ（Psychology Ⅰ）瀧ヶ崎隆司、関水しのぶ、近藤育代

全学科 教養科目（人間系）
2年 春学期2単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
行動科学としての心理学の手法、理論などを学ぶことによって、人間（自分自身及び他者）理解をすすめることを目的とする。まずパーソナリティについて、そのとらえ方や具体的な測定法、形成過程等を詳しく検討する。また、パーソナリティ検査を実際に体験し、自ら分析を試みる。その後で、対人関係の心理について考える。自分自身の特徴を客観的にとらえ、人間関係を円滑にするための手がかりを得ることを目標とする。

【成績評価】
期末試験90%、授業中のレポート・課題10%

【テキスト】浅井千秋（編著）『心理学をまなぶ』東海大学出版会(2005年)

【参考図書】

【準備学習】
テキストの第1章を読んでおくこと。

【授業計画】
1 心理学では何を学ぶのか
2 パーソナリティのとらえ方Ⅰ（類型論）
3 パーソナリティのとらえ方Ⅱ（特性論）
4 パーソナリティのとらえ方Ⅲ（精神分析理論）
5 パーソナリティ検査の体験
6 パーソナリティの測定法
7 パーソナリティの形成過程
8 アイデンティティ（自我同一性）
9 対人認知と自己認知
10 対人関係・交流分析
11 コミュニケーション
12 集団の心理Ⅰ（集団の魅力、凝集性）
13 集団の心理Ⅱ（集団規範、集団への同調）
14 組織の心理Ⅰ（リーダーシップ）
15 組織の心理Ⅱ（動機づけ）

【備考】

心理学Ⅱ（Psychology Ⅱ）瀧ヶ崎隆司、関水しのぶ、近藤育代

全学科 教養科目（人間系）
2年 秋学期2単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
この授業では、心の健康について考えていく。ストレスによって引き起こされる症状やそれへの対処法、近年特に問題となっているうつ病を始めとする精神障害やパーソナリティ障害などについて学ぶ。さらに、心の問題を抱えている人をサポートする方法の基礎を学ぶ。このような知識や技法を身に付けることで、学生諸君が心の健康を維持・増進し、学生生活及び卒業後の社会生活を楽しく充実したものに(well-being)できることを目標とする。

【成績評価】
期末試験90%、授業中のレポート・課題10%

【テキスト】浅井千秋（編著）『心理学をまなぶ』東海大学出版会(2005年)

【参考図書】

【準備学習】
テキストの第7章を読んでおくこと。

【授業計画】
1 心の健康とは
2 ストレッサーとストレス反応
3 ストレス認知とコーピング
4 統合失調症
5 うつ病の症状と経過
6 うつ病の原因と治療
7 神経症
8 パーソナリティ障害Ⅰ（妄想性、境界性など）
9 パーソナリティ障害Ⅱ（演技性、自己愛性など）
10 依存症
11 健康維持の生理学的メカニズムⅠ（神経系）
12 健康維持の生理学的メカニズムⅡ（免疫系、内分泌系）
13 臨床心理学の諸理論
14 カウンセリングの意義
15 ヒューマンサポートの基本技法

【備考】

哲学・現代思想論Ⅰ（Philosophy and Modern Thought Ⅰ）大森信明

全学科 教養科目（人間系）
３年 春学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
人間は哲学、思想に触れることによって心が豊かになることもあるでしょう。この授業では、哲学とは何かという話から始め、生きること、心の在り方、人間論などについて考えます。その後、古代ギリシャの哲学から、キリスト教、古代中国の思想、仏教、西洋中世哲学など、思想の流れをたどり、さまざまな哲学者の考え方を知り、自分の生き方に思いをめぐらせます。

【成績評価】
期末試験

【テキスト】
プリント

【参考図書】

【準備学習】
高等学校で学んだ「倫理」「世界史」「日本史」などの復習

【授業計画】
1 現代に生きること
2 哲学について
3 哲学の始まり
4 ポリスの哲学
5 ヘレニズムとキリスト教
6 古代中国の思想
7 仏教の発展
8 日本の伝統思想
9 西洋中世哲学
10 近代について
11 科学と人間
12 オリエンタリズム
13 倫理学と幸福論
14 日本の近現代
15 まとめ

【備考】

哲学・現代思想論Ⅱ（Philosophy and Modern Thought Ⅱ）大森信明

全学科 教養科目（人間系）
３年 秋学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
ルネサンス、宗教改革、啓蒙思想、ドイツ理想主義、イギリス功利主義、フランス実証主義、社会主義、実存主義などのテーマを取り上げ、近代、現代の思想の流れをたどり、哲学についての認識を深めます。先人の思想を研究することにより、物事の根源のあり方、原理を探り、自分の生き方をもみつめます。それがまた原典に向かう契機となることもあるでしょう。

【成績評価】
期末試験

【テキスト】
プリント

【参考図書】

【準備学習】
高等学校で学んだ「倫理」「世界史」「日本史」などの復習

【授業計画】
1 哲学について
2 近代と現代
3 ルネサンス
4 宗教改革
5 近代精神
6 近代国家
7 啓蒙思想
8 ドイツ理想主義とカント
9 ヘーゲルから現代へ
10 イギリス功利主義、フランス実証主義
11 社会主義
12 実存主義
13 科学技術
14 東洋と西洋
15 まとめ

【備考】

美術・芸術思潮論（Basic Knowledge on Aesthetic and Art）赤澤真理

全学科 教養科目（人間系）
３年 春学期２単位（集中講義）選択科目

【授業の目標】
日本の美術の歴史を、各時代の文化的・社会的背景をもとに理解する。歴史的な絵画・工芸・仏像・家具・建築空間などの造形には、それを制作し鑑賞した人々の憧れや願いなどが凝縮されている。歴史的な人々が生きた時代を背景に、各々の作品がいかに制作され鑑賞されたのかを踏まえながら、多彩なデザインにふれることで、感性を養い、自らの創造力を伸ばす糧となるように期待したい。日本の生活に関わる美術を中心に、豊富な画像資料を示しながら進め、日本美術の見どころに迫りたい。

【成績評価】
レポート（講義中に提出）及び、期末試験。

【テキスト】
各講義で配布。

【参考図書】
辻惟雄『日本美術史 カラー版』 美術出版社、2003年

【準備学習】
日本美術というとどのような画家・作品を思い出しますか？授業までに思い出してみましょう。

【授業計画】
1 日本美術のながれ
2 パトロンとはなにか―美術と社会―
3 博物館と美術館のみどころ
4 仏像のひみつ－見えないものを形にする－
5 絵巻物に描かれた戦う武士の姿
6 伝源頼朝像の制作年代をめぐる論争
7 水墨画の伝来―雪舟を中心に
8 襖に描かれた絵画と御殿―御用絵師・狩野派の成立
9 茶の湯の美意識とその変遷―利休から織部、遠州へ
10 琳派のデザイン力―風神雷神図を描いた画家
11 都市を描いた屏風－誰がなぜ制作したのか－
12 浮世絵の想像力―春信から広重・北斎まで
13 江戸絵画と工芸品
14 近代日本における生活デザイン
15 世界の中の日本美術

【備考】

文章表現法Ⅰ（Composition Ⅰ）倉本幸弘

全学科 教養科目（人間系）
1 年 春学期 1 単位（週 1 時限）選択科目

【授業の目標】
大学生・社会人として「文章を書く」ということは、その表現内容が全て公的な意味と役割を持つことになる。そこには一定の形式があり、文体があり、伝えるべき内容を正しく表現するための約束ごとがある。その形式と方法をモデルとなるような文章を読解することを通して、また、基礎的な作業（推敲、清書、添削）を通して身に付けていくことを目的とする。

【成績評価】期末試験を中心に評価するが、課題の作成、授業態度等も若干考慮する。

【テキスト】
適宜、用意して教場で配布する。

【参考図書】
適宜、指示ないしは紹介する。

【準備学習】
課題に対して最低限下書き程度の準備をすること。

【授業計画】
1 文章を書く基礎となるものについて理解する
2 文章が果たす機能について理解する
3 文章を書く上での約束事について理解する
4 文体、形式について理解する
5 文章の種類について理解する
6 文章の種類別の文体について理解する
7 自己紹介文を書く（1）具体的作業
8 自己紹介文を書く（2）推敲・添削
9 自己紹介文を書く（3）発表・評価
10 他人が書いたものについての論評（1）読解作業
11 他人が書いたものについての論評（2）批評作業
12 他人が書いたものについての論評（3）文章作成
13 他人が書いたものについての論評（4）推敲・添削
14 文章の完成
15 文章の発表・評価

【備考】

文章表現法Ⅱ（Composition Ⅱ）倉本幸弘

全学科 教養科目（人間系）
1 年 秋学期 1 単位（週 1 時限）選択科目

【授業の目標】
文章表現の基礎となる論理的思考とその論理的表現の能力を身に付けることを目的とする。方法としては思考と表現のモデルとなるような文章を読解することを通して、また、具体的な作業（実際に文章を作成し、それの推敲、清書、添削）を通して論理的文章を書く能力を高めていくことを目的とする。

【成績評価】期末試験を中心に評価するが、課題の作成、授業態度等も若干考慮する。

【テキスト】
適宜、用意して教場で配布する。

【参考図書】
適宜、指示ないしは紹介する。

【準備学習】
課題に対して最低限下書き程度の準備をすること。

【授業計画】
1 論理的思考とはどのような思考かを把握する
2 論理的思考のプロセスを理解する
3 論理的思考とはどのような思考かを理解する
4 モデルとなる論理的文章の読解（人文的分野）
5 モデルとなる論理的文章の読解（社会学的分野）
6 モデルとなる論理的文章の読解（自然科学的分野）
7 論理的文章の作成上の注意（展開）
8 論理的文章の作成上の注意（表現）
9 課題について論理的文章の作成（人文的分野）
10 課題について論理的文章の作成（社会学的分野）
11 課題について論理的文章の作成（自然科学的分野）
12 課題について論理的文章の作成（総合的領域）
13 作成した文章の発表
14 作成した文章について討議
15 文章の完成

【備考】

文学・情報文化論Ⅰ（Literature as information and Culture Ⅰ）倉本幸弘

全学科 教養科目（人間系）
4 年 春学期 2 単位（週 1 時限）選択科目

【授業の目標】
言語（日本語）の芸術である文学作品を読解・鑑賞することを通して、大学生として、また社会人としての基礎的教養の獲得を目的とする。まず、古代から現代にいたる日本文学の歴史を概観する。その上で、それぞれの時代を代表する文学作品（物語、小説、詩歌、評論、随想など）を取り上げ、作品の全部ないしは一部に触れながら、その作品の持つ時代的特殊性と時代を超えた普遍性、現代性について考える。

【成績評価】
期末試験・レポートによる

【テキスト】
随時指示する。

【参考図書】
随時指示する。

【準備学習】
各時間の項目について問題意識を持って授業に参加すること。

【授業計画】
1 日本文学史の概観（Ⅰ）中古の文学（前半）
2 日本文学史の概観（Ⅱ）中古の文学（後半）
3 日本文学史の概観（Ⅲ）中世の文学
4 日本文学史の概観（Ⅳ）近世の文学
5 日本文学史の概観（Ⅴ）近代の文学
6 日本文学史の概観（Ⅵ）現代の文学
7 和歌について
8 物語Ⅰ（源氏物語以前）
9 物語Ⅱ（源氏物語を中心に）
10 物語Ⅲ（源氏物語の周辺）
11 物語Ⅳ（説話）
12 日記・随筆・紀行（枕草子を中心に）
13 中世の文化Ⅰ（軍記を中心に）
14 中世の文化Ⅱ（芸能）
15 中世から江戸へ

【備考】

文学・情報文化論Ⅱ（Literature as Information and Culture Ⅱ）倉本幸弘

全学科 教養科目（人間系）
4年 秋学期2単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
近・現代における言語（日本語）を用いた芸術を中心にしつつ、それらが様々なメディアを用いたものへと拡大していく文化状況を概観することを通して、近・現代という時代を考える契機となるような授業を目指す。また近・現代の文化現象について、その代表的な表現者を取り上げ、その人となりを紹介しつつ、方法、思想、その時代との関係などについて考える。

【成績評価】
期末試験・レポートによる

【テキスト】
随時指示する。

【参考図書】
随時指示する。

【準備学習】
日本の近代・現代について書かれた評論などを予め読んでおくことを望む。

【授業計画】
1 日本近代文学史の概観（Ⅰ）江戸から明治時代へ
2 日本近代文学史の概観（Ⅱ）近代文学の始まり
3 日本近代文学史の概観（Ⅲ）明治時代の文学と文化(前期)
4 日本近代文学史の概観（Ⅳ）明治時代の文学と文化(後期)
5 日本近代文学史の概観（Ⅴ）明治から大正、昭和へ
6 日本近代文学史の概観（Ⅵ）近代から現代へ
7 小説（Ⅰ）森鷗外の文学
8 小説（Ⅱ）森鷗外とその周辺
9 小説（Ⅲ）夏目漱石の文学
10 小説（Ⅳ）夏目漱石とその周辺
11 近代の文化現象（Ⅰ）大正から昭和初期
12 近代の文化現象（Ⅱ）昭和初期
13 近代の文化現象（Ⅲ）第二次世界大戦中
14 現代の文化現象（Ⅰ）第二次世界大戦後
15 現代の文化現象（Ⅱ）今日の文化現象

【備考】

外国文学・比較文化論Ⅰ（Foreign Literature and Affairs I）川上省三

全学科 教養科目(人間系)
4年 春学期2単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
文学を中心にして、世界のさまざまな地域、民族、社会、歴史の中にある人間の在り方や、文化・文明の多義性と普遍性、また、相互依存性と独自性を考えることを目標とする。この科目では、外国語文学・文化と我々の係わり合い、翻訳の問題、文化・文学の発展の流れを取り扱い、特に、中国にも触れながら西欧を中心にして取り上げる。なかでも、西欧文化の源流とも言える古代ギリシャ・ローマの文化と聖書を重点的に扱う。

【成績評価】
レポートによる。

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】 邦訳でよいので、どこの国でもよいから、外国の小説、詩、文化事情などを読んでおくか、外国の映画、ドラマなどを見ておくことを勧める。

【授業計画】
1 外国語文学・文化と我々の係わり合い
2 翻訳の問題
3 文化・文学の発展の流れ
4 史記
5 三国志
6 中国の文学と我が国の古典文学
7 ホメーロスと歴史－トロイ戦争
8 ギリシャ悲劇
9 ギリシャの神々
10 古代ローマの社会・文化状況と文学
11 ラテン語
12 ローマの神々
13 西欧文化と聖書(1)－旧約聖書
14 西欧文化と聖書(2)－新約聖書
15 ルネッサンス

【備考】

外国文学・比較文化論Ⅱ（Foreign Literature and Affairs II）川上省三

全学科 教養科目(人間系)
4年 秋学期2単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
文学を中心にして、世界のさまざまな地域、民族、社会、歴史の中にある人間の在り方や、文化・文明の多義性と普遍性、また、相互依存性と独自性を考えることを目標とする。この科目では、東西交流による世界の拡大から始め、西欧の近・現代に至る文学・文化の流れについてイギリスを中心として扱い、モダニズム、ポストモダニズムを取り上げ、さらには、植民地支配を受けた人々によるポストコロニアル文学、英文学から英語で書かれた文学への流れにも触れる。

【成績評価】
レポートによる。

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】 邦訳でよいので、どこの国でもよいから、外国の小説、詩、文化事情などを読んでおくか、外国の映画、ドラマなどを見ておくことを勧める。

【授業計画】
1 東西文化の交流と世界の拡大
2 大航海時代
3 シェイクスピア
4 『ロビンソン・クルーソー』
5 『ガリバー旅行記』とその風刺的意義
6 17世紀のイギリスの社会・文化状況と文学
7 18世紀のイギリスの社会・文化状況と文学
8 ゴシック小説
9 西欧各国におけるロマン主義の展開
10 19世紀のイギリスの社会・文化状況と文学
11 20世紀のイギリスの社会・文化状況と文学
12 モダニズム
13 ポストモダニズム
14 ポストコロニアル文学
15 英文学から英語で書かれた文学へ

【備考】

産業倫理（Industrial Ethics）**枝根茂**

全学科 教養科目（人間系）
３年 春学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
企業の最大目的は利益の追求である。しかし、企業活動を行う上で最も重要なことは企業倫理を遵守し、消費者や社会から付託されている信頼に応えることである。そのために、企業は遵守すべき行動規範を企業倫理として策定し、経営理念や行動原理の中に明記して、社員全員に周知徹底している。
本講義では、法令遵守(compliance)をはじめ、自然・社会環境、人権保護といった観点から企業活動を規定し、組織的に統率する仕組みや運用体制について具体例を挙げてわかりやすく講義する。

【成績評価】
レポート課題と期末試験の総合評価

【テキスト】
開講時に指示する。

【参考図書】

【準備学習】
企業倫理に関する情報について日常から関心を持つこと。

【授業計画】
1 企業倫理とは？
2 コンプライアンス、社是・社訓について(ソニーの事例)
3 社風（ソニー・パナソニックの事例）
4 職業倫理
5 個人のモラル
6 企業会計における企業倫理
7 米国と日本の企業不祥事（エンロン・ブリヂストン・カネボウ・ライブドア事件）
8 製品に対する企業倫理
9 マーケティングに対する企業倫理
10 知的財産権に対する企業倫理
11 情報通信に対する企業倫理
12 投資家に対する企業倫理
13 環境に対する企業倫理
14 企業倫理の実践例
15 地域・国における企業倫理の違い

【備考】

実践異文化理解（Practical Cross-cultural Understanding）**英語教員**

全学科 教養科目（人文系）
１～４年２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
事前の準備を含めて、 体験を重視し、異文化の理解が深まるように進行する。現地での学習では、カナダアルバータ州クロウズネストパスにある研修施設を利用しながら、英語の授業および現地での野外活動やホームスティなどの体験と生活を通して異文化を経験し、その理解を深める。

【成績評価】事前セミナー(20%)、現地スタッフによる英語授業および野外活動の評価(80%)に基づき評価する。

【テキスト】
担当教員が教室にて配布する。

【参考図書】
開講時に指示する。

【準備学習】事前セミナーでは海外渡航の一般的注意、パスポート他の書類準備等、実際に本人に記入させる。また現地の情報収集、生活に関する異文化への理解などを学ぶ。

【授業計画】
1 カナダの文化・歴史についての基本情報を英語で読む
2 パスポート、渡航手続、その他、書類確認と記入・準備
3 ホームスティのための自己紹介文書の作成
4 ホームスティ申込書の作製
5 渡航書類、保険などの書類作成
6 実践異文化理解(1)　見学(宿泊施設近辺)
7 実践異文化理解(2)　農家見学
8 実践異文化理解(3)　バスによる見学小旅行
9 実践異文化理解(4)　博物館見学等(地元の歴史を知る)
10 実践異文化理解(5)　買い物
11 実践異文化理解(6)　キャンピングの準備・実施
12 実践異文化理解(7)　ラフティング体験
13 実践異文化理解(8)　レストランでの注文・食事・支払
14 実践異文化理解(9)　ホームスティ先での意思伝達
15 じっ背に文化理解(10)　場面に即した英語コミュニケーション

【備考】
なお、この科目は「海外英語セミナー」の単位に読み替えを可能とする。

工業地理学Ⅰ（Industrial Geography Ⅰ）本木弘悌

全学科 教養科目（社会系）
1 年 春学期 2 単位（週 1 時限）選択科目

【授業の目標】
工業は社会的存在であり、多様な側面をもつ。この工業を技術のみで考えることはできない。技術は万能ではない。激変する産業界はいま、広い視野から産業の問題を考える人材を求めている。この講義ではグローバル化が進み、環境共生が不可欠とされているなかで、工業の地域的、社会的存在としてとらえ、土地利用のなかに位置づけて考える。

【成績評価】講義内容の「整理カード」(50%)と「まとめレポート」（50%）より成績を評価する。

【テキスト】『環境変化と工業地域（改訂版）』原書房、『日本経済地理読本　第８版』東洋経済新報社

【参考図書】

【準備学習】
毎時間、次回講義の予告をするので、テキストで該当する箇所を読み準備してくること。

【授業計画】
1 工業地理学をどう学ぶか
2 環境の科学、社会科学としての地理学
3 環境と生活・生産・文化
4 地球環境共生と地理学
5 地域的存在としての工業
6 チューネンの圏構造の考え方
7 工業立地論と工業集積
8 工業立地論と土地利用体系
9 工業地域システムの考え方
10 工業地域システムの前提
11 工業地域のリニューアル
12 地場産業と地域
13 工業システムのグローバル化
14 地球環境共生と工業
15 工業と地域のあり方を考える

【備考】

工業地理学Ⅱ（Industrial Geography Ⅱ）本木弘悌

全学科 教養科目（社会系）
1 年 秋学期 2 単位（週 1 時限）選択科目

【授業の目標】
自動車、半導体、鉄鋼等各種工業、東京大都市地域、地方工業地域、海外の工業地域などの具体的な事例をもとにしながら、工業活動の地域的しくみを明らかにし、工業地域政策や地域環境問題を考える。

【成績評価】講義内容の「整理カード」(50%)と「まとめレポート」（50%）より成績を評価する。

【テキスト】『環境変化と工業地域（改訂版）』原書房、『日本経済地理読本　第８版』東洋経済新報社

【参考図書】

【準備学習】
毎時間、次回講義の予告をするので、テキストで該当する箇所を読み準備してくること。

【授業計画】
1 地球環境を踏まえた工業地理学の探求
2 工業変動と地域システムの変化
3 日本工業の集積過程
4 研究・開発機能とハイテク産業
5 自動車工業の成立と展開
6 グローバル化と自動車工業地域
7 機械工業地域システムの原型
8 日本の経済地域
9 地方の工業地域
10 大都市地域と工業地域システム
11 大都市機械工業の地域体系
12 大都市内部の工業
13 インナーシティと産業地域社会
14 地球環境保全と工業地域システム
15 環境変化と工業地域

【備考】

憲法・市民生活と法Ⅰ（Constitutional Law:Citizen Life and Law Ⅰ）枝根茂

全学科 教養科目（社会系）
2 年 春学期 2 単位（週 1 時限）選択科目

【授業の目標】
憲法の講義を通して、わが国の国法体系ならびに憲法の内容について正しく理解すると同時に、憲法全体の法精神・法律的な解釈の仕方や、事象を見る目を身につけることを目標とする。春学期はとりわけ法の精神と解釈の仕方を学ぶことが中心となる。

【成績評価】
期末試験の成績で評価する。

【テキスト】
開講後に指示する。

【参考図書】

【準備学習】
日頃から日刊新聞の社会面やテレビのニュースに注目しておくこと。

【授業計画】
1 法とは何か、法の効力
2 犯罪と法
3 家族生活と法（親と子）
4 家族生活と法（夫婦）
5 家族生活と法（相続）
6 消費生活と法
7 財産関係と法
8 交通事故と裁判
9 国家と国民
10 国民主権
11 憲法の種類と分類
12 明治憲法の制定と特徴
13 日本国憲法の制定と特徴
14 憲法の変遷と定着
15 憲法改正手続きと限界

【備考】

憲法・市民生活と法Ⅱ（Constitutional Law:Citizen Life and Law Ⅱ）枝根茂

全学科 教養科目（社会系）
２年 秋学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
憲法の講義を通して、わが国の国法体系ならびに憲法の内容について正しく理解すると同時に、憲法全体の法精神・法律的な解釈の仕方や、事象を見る目を身につけることを目標とする。秋学期はわが国の統治制度の理解が中心となる。

【成績評価】
期末試験の成績で評価する。

【テキスト】
開講後に指示する。

【参考図書】

【準備学習】
日頃から日刊新聞の社会面やテレビのニュースに注目しておくこと。

【授業計画】
1 人権の歴史
2 自由権的基本権（表現の自由）
3 自由権的基本権（身体の自由）
4 自由権的基本権（経済の自由）
5 社会権的基本権
6 内閣（内閣制度）
7 内閣（内閣総理大臣と内閣）
8 国会（国会制度）
9 国会（両院制）
10 裁判所
11 平和主義
12 象徴天皇制
13 憲法訴訟
14 条約と憲法
15 地方自治と憲法

【備考】

経済学Ⅰ（Economics Ⅰ）小野哲司

全学科 教養科目（社会系）
２年 春学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
我々の生活に身近な経済制度、現象などについて、その仕組み、働き、役割などを講義する。春学期においては株式と株式会社に関する話題を手始めに話を進める。併せて春学期に起こった社会・経済問題、事件などの解説なども行なう。

【成績評価】
期末試験

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】
株、為替、景気などの経済ニュースに接するように意識して下さい。

【授業計画】
1 財産権と民法
2 株式と株式会社
3 株価の動向
4 企業の吸収・合併
5 銀行と証券の役割
6 独占禁止法
7 景気の動向
8 日本の産業：自動車産業を巡って
9 世界の地理と社会
10 労働の状況
11 消費者問題と消費者契約
12 日本の所得分配
13 2013年前期における社会・経済事件（１）
14 2013年前期における社会・経済事件（２）
15 2013年前期における社会・経済事件（３）

【備考】

経済学Ⅱ（Economics Ⅱ）小野哲司、木下富夫

全学科 教養科目（社会系）
２年 秋学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
我々の生活に身近な経済制度、現象などについて、その仕組み、働き、役割などを講義する。秋学期においては、公的年金、食料自給率の向上、国際的な金融危機など、日本の直面する国内・国際問題を中心に話を進める。併せて秋学期に起こった社会・経済問題、事件などの解説なども行なう。

【成績評価】
期末試験

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】
株、為替、景気などの経済ニュースに接するように意識して下さい。

【授業計画】
1 GDPについて
2 近年の日本経済
3 世界経済の状況
4 日本の貿易の状況
5 WTO交渉と各国の利害
6 食料自給率と農業保護
7 公的年金の現状
8 医療、医療保険の現状
9 国の借金と国民の負担
10 地域経済の状況
11 資源の有限性
12 CO2削減と排出権取引
13 2013年後期における社会・経済事件（１）
14 2013年後期における社会・経済事件（２）
15 2013年後期における社会・経済事件（３）

【備考】

産業論Ⅰ（Industrial Systems and it's Society Ⅰ）

全学科 教養科目（社会系）
3年 春学期2単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
産業活動はダイナミックに展開している。いま、産業界では単に工業技術に偏らず、広い視野から考えることのできる人材を求めている。本講義では、産業についての基本的な考え方をマスターするとともに、外部講師も招き具体的な産業のしくみについて考える。

【成績評価】最終課題に毎時間の小レポートの内容、参加態度を加味して評価する。

【テキスト】

【参考図書】
『日本産業読本』東洋経済新報社

【準備学習】社会の仕組みやビジネスの隆盛に興味をもち、ニュースや新聞、ビジネス関連の雑誌等より情報収集に努めること。紹介された文献を読むこと。

【授業計画】
1 いま産業を考える
2 世界の産業動向
3 日本の産業動向
4 産業システム
5 産業組織
6 産業政策と立地条件
7 世界の中の日本農業
8 運輸業と経済規制
9 流通産業と経済規制
10 電気通信産業と経済規制
11 持続的産業発展と環境共生
12 経済環境変化と建設業
13 エネルギー産業・資源論
14 サービス産業
15 産業の側面について

【備考】
平成25年度休講

産業論Ⅱ（Industrial Systems and it's Society Ⅱ）

全学科 教養科目（社会系）
3年 秋学期2単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
産業についての基本的な考え方をベースに第2次・第3次産業を中心に、具体的な産業活動の実態を明らかにする。本講義では、何人かの講師を外部から招き、オムニバス方式を取り入れながら理解を深める。

【成績評価】最終課題に毎時間の小レポートの内容、参加態度を加味して評価する。

【テキスト】

【参考図書】
『日本産業読本』東洋経済新報社

【準備学習】社会の仕組みやビジネスの隆盛に興味をもち、ニュースや新聞、ビジネス関連の雑誌等より情報収集に努めること。紹介された文献を読むこと。

【授業計画】
1 産業はいま
2 鉄鋼業と構造変化
3 自動車産業の発展
4 自動車産業の展望
5 ハイテク産業
6 地場産業
7 食品産業
8 原子力産業
9 金融業
10 建築業
11 文化産業
12 観光業とリゾート開発
13 情報産業
14 産業と政策
15 産業の変化について

【備考】
平成25年度休講

会計学Ⅰ（Accounting Ⅰ）枝根茂

全学科 教養科目（社会系）
3年 春学期2単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
会計とは、金銭の収支、財貨やサービスの生産・消費などの経済活動や経済事象について、主として貨幣額で測定し、記録し、報告する行為を指す。本講義では、会計という技法が社会の経済的側面で果たしている役割を総合的に考察することを目標とする。

【成績評価】
期末試験の成績で評価する。

【テキスト】
開講後に指示する。

【参考図書】

【準備学習】
日頃から日刊新聞の社会面やテレビのニュースに注目しておくこと。

【授業計画】
1 企業会計の役割
2 財務会計制度（財務会計）
3 財務会計制度（管理会計）
4 企業会計の仕組み（技術的特徴）
5 企業会計の仕組み（理論的特徴）
6 損益計算書の仕組み（損益会計の意義）
7 損益計算書の仕組み（損益項目の分類）
8 貸借対照表の仕組み（資産会計）
9 貸借対照表の仕組み（負債会計・資本会計）
10 企業会計原則
11 会計と監査
12 会計と税務
13 財務諸表の見方
14 決算書
15 オンバランスとオフバランス

【備考】

会計学Ⅱ（Accounting Ⅱ）枝根茂

全学科 教養科目（社会系）
３年 秋学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
会計という技法が社会の経済的側面で果たしている役割を総合的に考察することを目標とする。とりわけ、本講義では、大企業の経済活動によって生み出される会計数値が、企業の利害関係者や企業の内部組織やグループ組織の設計、資金調達、経営戦略の決定といった、さまざまな側面に影響を与えることを理解してもらいたい。

【成績評価】評価は期末試験の成績４０％、レポート課題６０％で評価する。

【テキスト】
開講後に指示する。

【参考図書】

【準備学習】
日頃から日刊新聞の社会面やテレビのニュースに注目しておくこと。

【授業計画】
1 企業のディスクロージャー
2 連結財務諸表制度（意義と目的）
3 連結財務諸表制度（連結の範囲）
4 連結財務諸表制度（連結貸借対照表）
5 連結財務諸表制度（連結損益計算書）
6 連結財務諸表制度（未実現損益の消去）
7 連結財務諸表制度（持分法）
8 キャッシュフローの会計
9 経営分析（安全性・収益性）
10 経営分析（生産性）
11 経営分析（成長性）
12 事例研究（自動車メーカーの比較）
13 事例研究（大手スーパーの比較）
14 分析手法の限界
15 レポート作成のポイント

【備考】

国際関係論Ⅰ（International Relations I）大森信明

全学科 教養科目（社会系）
４年 春学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
私たちは日頃、国際化と呼ばれる事態に囲まれ暮らしています。しかもその変化は早く、理解や予測が困難です。この授業では、おもに歴史を知ることにより国際関係論の成り立ちや考え方を学びます。

【成績評価】
期末試験

【テキスト】
プリント

【参考図書】

【準備学習】
高等学校で学んだ「政治・経済」「世界史」「日本史」などの復習

【授業計画】
1 国際関係論の意義
2 国際関係論の成立と展開
3 国際関係論の方法
4 カー「危機の二十年」
5 国際機構
6 グローバリゼーション
7 外交と国際関係
8 第一次世界大戦
9 第二次世界大戦
10 文化相対主義とオリエンタリズム
11 冷戦
12 ポスト冷戦
13 環境問題
14 国際協力
15 まとめ

【備考】

国際関係論Ⅱ（International Relations Ⅱ）大森信明

全学科 教養科目（社会系）
４年 秋学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
「国際関係論Ⅰ」を受け、今日の状況を理解する基本は歴史にあると考えます。高等学校までの断片的な学習を補うべく、国際社会の中での、日本の外交史を中心に学びます。

【成績評価】
期末試験

【テキスト】
プリント

【参考図書】

【準備学習】
高等学校で学んだ「政治・経済」「世界史」「日本史」などの復習

【授業計画】
1 日本外交の背景
2 ペリーと開国
3 不平等条約と領土問題
4 明治体制の成立
5 日清戦争
6 日露戦争
7 第一次大戦と日本
8 ワシントン会議
9 日中戦争
10 日独伊と日ソ
11 太平洋戦争
12 占領政策
13 日米安保と中国政策
14 経済大国への道
15 まとめ

【備考】

幾何の方法（Introduction to Geometry）数学教員

全学科 教養科目（自然系）
２年 春学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
「紐を結ぶ」という行為は私達の日常生活においてしばしば登場するが、実用性の高いものから装飾性の高いものまで用途に応じて実にさまざまな結び方がある。このように身近な対象である結び目を数学的対象として取り扱っているのが「結び目理論」といわれる数学の一分野である。本講義では、結び目理論への入門として結び目の数学的な取り扱いおよび不変量という概念の理解を達成目標とする。

【成績評価】
期末試験・レポートによる。

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】前回のノートを1度は読み返してください。言葉や記号の定義を正しく理解しておくことが、次回の授業の準備になります。

【授業計画】
1 結び目を数学の立場から眺める方法
2 結び目と絡み目：定義と図形表示
3 結び目と絡み目：素な結び目と合成結び目
4 結び目と絡み目：ライデマイスター変形
5 有向絡み目と絡み数
6 絡み数の性質
7 3彩色可能性　：定義と具体例
8 3彩色可能性　：判定方法
9 3彩色可能性の性質
10 コンウェイ多項式：定義と簡単な具体例
11 コンウェイ多項式：計算方法とその具体例
12 コンウェイ多項式の性質
13 ジョーンズ多項式：定義と簡単な具体例
14 ジョーンズ多項式：計算方法とその具体例
15 総合演習

【備考】

近似の理論（Approximation Theory）数学教員

全学科 教養科目（自然系）
２年 春学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
この授業では、数の近似・関数の近似・関数空間の近似などの近似について取り扱う。まず、数の近似であるが、これは近似値としてなじみが深い。実際、円周率・ネピアの数などの近似値を紹介する。次に、テイラー展開などを用いて関数の近似を紹介する。これらは関数を多項式で近似することにより、関数の値の近似値を求めることを可能にしている。さらに、フーリエ級数についても触れる。これらを通じて「近似する」ということの習得を達成目標とする。

【成績評価】
期末試験・レポートなどによる。

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】授業後のノートの整理が重要である。その際「定義」の理解に努め、「例題」をもう一度自分で解いてみることが理解への助けになる。

【授業計画】
1 1=0.999…
2 連分数
3 円周率
4 ネピアの数
5 テイラー展開
6 マクローリン展開
7 オイラー法
8 総合演習(1) 前半のまとめ
9 フーリエ級数
10 フーリエ級数の性質
11 フーリエ級数の応用
12 クロフキンの近似定理
13 ストーン・ワイアストラウスの定理
14 多項式近似
15 総合演習(2) 後半のまとめ

【備考】

現代数学の構造（Modern Mathematics）数学教員

全学科 教養科目（自然系）
２年 春学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
現代数学における数の概念の習得を達成目標とする。すなわち、直観的な数に対する意識からの脱却を目標とする。具体的には、自然数の帰納的な定義、演算の定義および代数構造、整数に対する余りつき除法の定義、最大公約数、最小公倍数、ユークリッドの互除法、一次不定方程式、剰余の計算、有理数の定義および演算、循環小数、実数の公理、極限、代数方程式の解法などを題材として説明する。

【成績評価】
レポート(10回、1回10点)

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】
Web上にある資料(授業中指示)を読み、予習をすること。

【授業計画】
1 数とは
2 除法の原理
3 最大公約数と最小公倍数
4 ユークリッドの互除法
5 一次不定方程式
6 中国の剰余定理
7 オイラーの関数
8 オイラーの定理、フェルマーの定理
9 有理数の代数
10 循環小数
11 実数の公理
12 上限、下限
13 代数方程式の解
14 複素数の位相
15 数学的帰納法と自然数

【備考】

代数的構造（Numbers in a Wonderful World）数学教員

全学科 教養科目（自然系）
２年 秋学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
「整数論」は、自然科学分野すべての故郷である。しかし、「整数論」というと大げさだが、要するに、1、2、3、…という整数（自然数）の足し算・引き算・掛け算・割り算をするだけである。そんなことが、現代情報社会のセキュリティーのための「暗号」にしっかり使われていたりする。ここでは、慣れ親しんでいるはずの整数の四則を通じて、実際に自分で考え、その持つ深遠な意味を感じることを達成目標とする。

【成績評価】
レポート40％　期末試験60％

【テキスト】

【参考図書】
その都度紹介する。

【準備学習】授業後のノートの整理が重要です。その際、「定義」の理解に努め、「例題」をもう一度自分で解いてみることが理解への助けになります。

【授業計画】
1 自然数
2 対偶・背理法
3 数学的帰納法
4 二項定理
5 約数、ユークリッドの互除法
6 最大公約数、最小公倍数
7 不定方程式
8 素因数分解
9 n!の約数
10 整数の合同
11 合同式の割り算
12 中国剰余定理
13 素数
14 素数にまつわる諸問題
15 完全数、友愛数

【備考】

複素解析の技法（Method of Complex Analysis）数学教員

全学科 教養科目（自然系）
２年 秋学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
複素関数論が近代科学の発展に果たした貢献は大きい。この授業では、基本的な複素数の計算から始めて、具体的な問題に応用することを考える。この授業で最も多く取り扱うものは複素関数である。複素関数は実関数と異なる特徴をもつ。そのことを理解するために、複素数の計算・正則性の判定・積分定理の活用などを授業で紹介する。これらの知識の習得を達成目標とする。

【成績評価】
期末試験・レポートなどによる。

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】授業後のノートの整理が重要である。その際「定義」の理解に努め、「例題」をもう一度自分で解いてみることが理解への助けになる。

【授業計画】
1 実数と複素数
2 複素数平面
3 点列・極限
4 複素変数関数
5 正則関数
6 正則性の判定
7 コーシー・リーマンの判定法
8 調和関数
9 総合演習⑴　前半のまとめ
10 積分路と複素積分
11 複素積分の具体例
12 正則関数の積分
13 コーシーの積分定理
14 コーシーの積分公式
15 総合演習⑵　後半のまとめ

【備考】

組合せ数学（Combinatorics）数学教員

全学科 教養科目（自然系）
２年 秋学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
与えられた凸多角形に何個の単位円を互いに交わらないように詰め込むことができるだろうか？また、凸多角形を完全に覆うためには何個の単位円が必要だろうか？これらは「組合せ幾何学」における古典的問題であり、それぞれ「詰め込みの問題」、「被覆の問題」と呼ばれている。本講義では、これらの問題に関する基礎知識の習得を達成目標とする。

【成績評価】
期末試験・レポートによる。

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】前回のノートを1度は読み返してください。言葉や記号の定義を正しく理解しておくことが、次回の授業の準備になります。

【授業計画】
1 長方形への単位円の詰め込み：具体例を解く
2 長方形への単位円の詰め込み：定理とその証明
3 正方形への単位正方形の詰め込み：具体例を解く
4 正方形への単位正方形の詰め込み：定理とその証明
5 凸多角形への円の詰め込み：具体例を解く
6 凸多角形への円の詰め込み：定理と証明の方針
7 凸多角形への円の詰め込み：定理の証明
8 基本的な証明の手法：鳩の巣原理
9 平面への単位円の詰め込み
10 基本的な証明の手法：数学的帰納法
11 欠損チェス盤への牌の敷き詰め：ドミノ牌
12 欠損チェス盤への牌の敷き詰め：Ｌ字牌
13 ドミノ牌による敷き詰め
14 凸多角形の円による被覆
15 総合演習

【備考】

線形および非線形現象（Linear and Nonlinear Phenomena）物理教員

全学科 教養科目（自然系）
２年 春学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
線形と非線形の違いは簡単には算数の1+1＝2が成り立つか否かで判断します。自然界の現象には線形現象よりむしろ非線形現象が多く、この講義では非線形現象の物理的要因を中心に考える。解析的に解けない非線形現象は、デタラメな無謀な振る舞いをする訳ではなく、仏教の輪廻（りんね）思想に即した永続的な振る舞いを示す東洋的科学でもある。

【成績評価】
期末テスト・小テスト・演習課題などによる。

【テキスト】
開講時に指示する。

【参考図書】十河清(著)『非線形物理学-カオス・ソリトン・パターン- 』裳華房

【準備学習】
授業の資料を読んで、授業ノートの整理・理解に努める。

【授業計画】
1 線形とは
2 非線形とは
3 単振子の無限小振幅と有限振幅
4 波動方程式
5 分散系
6 K-dv方程式
7 非線形LCはしご形回路
8 浅水波ソリトン
9 ポロロッカと津波
10 非線形波動の集束
11 プラズマ中の非線形波動
12 イオン音波ソリトン
13 輪廻とは
14 カオスとは
15 非線形現象のまとめ

【備考】

時空の物理（Spacetime Physics）物理教員

全学科 教養科目（自然系）
２年 秋学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
相対性理論は空間と時間の概念に大きな変革をもたらした。本講義では、古代から現代まで順を追って、自然観(力学観)の変遷を概観しつつ、特殊相対論を解説する。

【成績評価】
期末テスト・小テスト・演習課題などによる。

【テキスト】
開講時に指示する。

【参考図書】
開講時に指示する。

【準備学習】
講義ノートの整理・理解に努める。

【授業計画】
1 古代天文学
2 物理的空間と数学
3 慣性系
4 ニュートン力学の対称性
5 光
6 マイケルソン・モーレーの実験
7 特殊相対性原理
8 時間と長さの測定
9 ローレンツ変換
10 4次元時空
11 時計の遅れと物体の収縮
12 速度の変換則
13 相対性理論の対称性
14 相対論的運動方程式
15 エネルギーと質量の同等性

【備考】

物質の探求（Research for Matter）物理教員

全学科 教養科目（自然系）
２年 秋学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
「物質の基本は何か」という疑問に答えるために、古代人類の思考の履歴を追うことから始まり近代科学で解明された物質の姿について解説する。この問を探求する中で多くの科学的発見と新しい学問分野が生まれた。これらは現代の最先端科学を支える学問分野であり科学技術の発展に必要不可欠なものとなった。これらの応用技術についても紹介し、物質と私たち人類との関係についての知識を高める。

【成績評価】
期末試験70%、課題レポート30%

【テキスト】

【参考図書】S. Weinberg著『The Discovery of Subatomic Particles』Cambridge Univ. Press,(2004)

【準備学習】
次回に行う講義のキーワード内容を事前に予習しておくこと。

【授業計画】
1 物質の成り立ち
2 古代の物質観
3 化学と錬金術
4 電子の発見
5 原子と原子核
6 原子発光および吸光
7 量子力学の誕生
8 量子力学の変遷
9 中性子の発見
10 素粒子と加速器
11 核分裂の発見
12 核分裂エネルギー
13 核融合エネルギー
14 電離気体’プラズマ’
15 核エネルギーと放射線

【備考】

面白い科学の実験（Intellectual Science Laboratory）物理教員

全学科 教養科目（自然系）
２年 春学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
現実に起きる自然現象をデモンストレーション実験を通して体験する事で、自然現象の奥にひそむ基本的な科学の法則を理解すること、それをふまえ、自ら学んだことを人に示せることを目的とする。いわば大学での科学博物館を目指した演示実験を中心にした参加型の講義である。

【成績評価】課題レポート50％、期末試験50％として、60点以上を合格とする。

【テキスト】
必要に応じてプリントを配布する。

【参考図書】

【準備学習】
次回のテーマのタイトルをキーワードにして、どのようなものか調べてみること。

【授業計画】
1 ガイダンス：科学実験の面白さ
2 モンキーハンティングの解説
3 モンキーハンティングの実験
4 大気圧の話
5 大気圧の実験
6 光の話
7 光の実験
8 流体の話
9 流体（浮力と揚力）の実験
10 音の話
11 音の実験
12 セグウェイとジャイロ効果
13 クリップモータと電磁力
14 放電（発光、吸光）の実験
15 電気とプラズマの実験

【備考】

宇宙と物理（The Cosmos and Physics）物理教員

全学科 教養科目（自然系）
２年 秋学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
宇宙について知りたい、宇宙の中での人間の存在意義を確かめたい、宇宙に行きたい、このような欲求は物理学を筆頭とする科学・工学の進歩の原動力となってきました。この講義ではさまざまな物理現象の基礎を、宇宙でのトピックをテーマに学びます。また、宇宙の中ではちっぽけな、しかし貴重な人間や地球について科学的に認識し、考えるための基礎知識を与えることを目的とします。

【成績評価】
期末試験50％、演習課題および小レポート50％

【テキスト】
プリントを配布

【参考図書】渡部潤一監修『カラー版徹底図解　宇宙のしくみ』新星出版社など

【準備学習】宇宙に関連する一般科学解説書などを一冊以上手に入れて読んでください（推薦図書は授業中にも紹介する予定です）。

【授業計画】
1 亀と象の宇宙から－宇宙観の変遷と最新宇宙像
2 天文学的数字とは－宇宙のスケール
3 それでも地球はまわる－近代力学成立前夜
4 光で観る宇宙－望遠鏡と光学
5 電波で観る宇宙－電波天文学とビッグバン
6 宇宙への旅立ち－重力とエネルギー
7 地球は青かった－人工衛星の力学
8 太陽系グランドツアー－天体の力学
9 人類月に立つ－真空と温度
10 母なる太陽－恒星のエネルギー
11 太陽からの風－プラズマと電磁気学
12 スターチャイルド－星の進化と物質の輪廻
13 輝く星々の彼方へ－銀河旅行と相対論
14 事象の地平を抜けて－ブラックホールと量子論
15 再び地球へ－宇宙の中の人間

【備考】
授業には電卓を持参してください。

物質のしくみ（Structure of Matter）化学教員

全学科 教養科目（自然系）
２年 春学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
科学技術の発達によって。自然界からさまざまな物質が発見されたり、自然界には存在しない物質が人工的に合成されるようにもなり、私たちの現在の生活は化学によって支えられているとも言える。
本講義では、物質をつくっている種々の元素の原子の構造とその結合についての考え方を学び、物質の構造がその性質とどのように関係しているかを体系的に理解するよう努める。

【成績評価】
期末試験70％、演習課題30％

【テキスト】
杉森彰著『物質の機能からみた　化学入門』裳華房

【参考図書】

【準備学習】
講義ノートの整理・理解に努める。

【授業計画】
1 物質構造の階層性と機能性
2 電子のプロフィール
3 原子のプロフィール
4 元素の周期律(1) 電子配置
5 元素の周期律(2) 周期表
6 原子の機能性
7 結合のいろいろ(1) イオン結合と共有結合
8 結合のいろいろ(2) 金属結合
9 結合が作り出すもの(1) 結合と物質
10 結合が作り出すもの(2) 物質の性質
11 物質の状態(1) 物質の三態
12 物質の状態(2) ガラスと液晶
13 さまざまな材料
14 物質の機能性
15 材料の安全性、環境とリサイクル

【備考】

日本の諸地域（Various Region in Japan）本木弘悌

全学科 教養科目（環境系）
３年 春学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
日本の諸地域は多様な風土と諸条件の上に、特色ある展開を示している。本講義では、各地域の特色と環境について様々な事例を中心に考える。今日、情報や経済がグローバル化する現代社会において、改めて地域の多様性が問われている。本講義を通して地域をみることの意義について理解を深め、世界からみた日本の特色について考え発信できることを目標とする。

【成績評価】最終課題に毎時間の小レポートの内容、参加態度を加味して評価する。

【テキスト】
地図帳

【参考図書】
『日本経済地理読本　第８版』東洋経済新報社

【準備学習】
日頃から地域による違いについて目を配り、地域について考えること。紹介された文献を読むこと。

【授業計画】
1 地域をみることの意義
2 自然環境からみた日本列島の特色
3 日本の自然環境の特色
4 地域区分について
5 大都市圏の地域環境
6 江戸と東京
7 京都の地域環境とまちの繁栄
8 九州とアジア
9 まちおこしと地域発展
10 地域環境と風土
11 地域発展と環境
12 環境共生の地域的側面
13 環境共生と日本人の知恵
14 人間・地域・環境を考える
15 世界からみた日本

【備考】

世界の諸地域（Various Region in the World）本木弘悌

全学科 教養科目（環境系）
３年 秋学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
世界各地の情報が時々刻々と伝えられる今日、地球という空間と環境を共有している人類は、どれだけ互いを理解しているのだろうか。グローバル化が急速に進む今日、本講義では世界の諸地域における環境、文化、経済の実態について、様々な事例から考える。

【成績評価】最終課題に毎時間の小レポートの内容、参加態度を加味して評価する。

【テキスト】
地図帳

【参考図書】

【準備学習】日頃から国際的な動きに目を配り、ニュースや新聞などにより情報収集に努めること。紹介された文献を読むこと。

【授業計画】
1 現代世界をみるための視点
2 自然環境の概観
3 自然環境の特色
4 社会環境の概観
5 社会環境と地域区分
6 自然環境と人間社会の接点
7 南アジアの地域環境
8 東アジアの地域環境
9 西アジアの地域環境
10 西ヨーロッパの地域環境
11 東ヨーロッパの地域環境
12 アメリカ州の地域環境
13 地球環境時代とグローバル化
14 環境共生への探索
15 世界の潮流を考える

【備考】

環境と人（Introduction to Environment）化学教員

全学科 教養科目（環境系）
２年 秋学期２単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
人類の活動により地球環境は悪化しており、環境と共生しながら持続可能な開発を行うことが技術者に課せられた問題となっている。科学的な視点を中心に、社会的な視点からも環境問題を理解することを目標とする。

【成績評価】
期末試験70％、演習課題30％

【テキスト】
岡本博司著『環境科学の基礎』東京電機大学出版局

【参考図書】

【準備学習】
講義ノートの整理・理解に努める。

【授業計画】
1 人間と環境
2 地球の温暖化(1) 温室効果ガス
3 地球の温暖化(2) 影響と対策
4 オゾン層破壊(1) 分子レベルのメカニズム
5 オゾン層破壊(2) 影響と対策
6 酸性雨(1) 分子レベルのメカニズム
7 酸性雨(2) 影響と対策
8 自動車排気ガス(1) 分子レベルのメカニズム
9 自動車排気ガス(2) 影響と対策
10 エネルギーと環境(1) さまざまなエネルギー
11 エネルギーと環境(2) 問題点
12 生態系
13 ダイオキシン
14 農薬
15 生活環境

【備考】

生命のしくみ（Introduction to Life Science）生物教員

全学科 教養科目（環境系）
1年 春学期 2単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
今日、「もの」を積極的に現代社会へ提供していく工学は、私たちをはじめとする他の動物や植物がもつ「生命」に対して良くも悪くも大きな影響を与えている。そのため、常に、「生命」に配慮した工学・工業社会を築いていかなければならない。そこで、「生命の神秘」を学んだ上で、生きものの持つ巧妙精緻な機能を理解することにより、生命のしくみを基礎として新しい工学を拓くことを目標とする。

【成績評価】
期末試験

【テキスト】
授業中に適宜配布する。

【参考図書】

【準備学習】
復習に力点を置く。そのためには講義内容を毎回復習し、整理、理解に努める。

【授業計画】
1 生命の基本単位⇒細胞
2 細胞の構造とはたらき
3 単細胞生物から多細胞生物へ
4 動物個体、植物個体の成り立ち
5 生殖のしくみ
6 植物のしくみ
7 脳のしくみ
8 感情のしくみ
9 いろいろな遺伝
10 ヒトの遺伝
11 遺伝子の本体
12 DNAの構造と複製
13 形質発現の調節
14 遺伝子研究とその応用
15 思考でロボットをあやつる

【備考】

生物社会のしくみ（Biological Systems）生物教員

全学科 教養科目（環境系）
1年 秋学期 2単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
私たち生物は、私たちを取り巻いている環境と密接につながりあうことで「生」を維持している。一方、産業活動は生命活動上有害な物質や、消費したエネルギーを熱として放出している。人類のこうした活動は本来の生態系に影響を与え、地球の存続に大きな影を落とす。そこでこの授業では、生態系（生物体と環境を一体としてとらえたシステム）を基礎とし、動物・植物の社会を学ぶことにより、産業活動と生物が共存し得る新しい工学につなげられる思考を養うことを目的とする。

【成績評価】
期末試験

【テキスト】
授業中に適宜配布する。

【参考図書】

【準備学習】
復習に力点を置く。そのためには講義内容を毎回復習し、整理、理解に努める。

【授業計画】
1 刺激の受容と反応
2 動物の行動
3 私たちのからだと恒常性
4 植物の反応と調節
5 生物と環境
6 個体郡内の相互作用
7 生物集団の分布
8 生態系
9 生命の起源と進化
10 生物の多様性と系統
11 生物の環境と生態系の関係
12 生態系のバランス
13 生態系（エコシステム）の構成
14 様々な生物社会とその成立メカニズム
15 生命環境科学

【備考】

地球環境と人間社会（Environment and Human Society）佐藤杉弥、成田健一

全学科 教養科目（環境系）
3年 春学期 2単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
現代社会に”もの”を積極的に創造し提供して行く、すなわち、地球・自然・人間社会によくも悪くも能動的に影響を与える、あるいは、与えてしまう工学を目指す学生諸君には「環境に対する感性と知恵」を持つことが特に重要である。これを養うための基礎的事項を解説する、複数教員によるオムニバス形式の講義。

【成績評価】
期末試験20%、演習課題80%

【テキスト】
必要に応じてプリントを配布

【参考図書】

【準備学習】「地球環境問題」と呼ばれるものはどのようなものか調べ、自分はどのようにとらえるかを考える。新聞・ニュースなどで関係記事に注意する。

【授業計画】
1 地球環境問題とはなにか
2 宇宙の中の地球と人間
3 宇宙環境をとらえる大きな目
4 惑星地球のエネルギー環境
5 大気圏の環境と物質の循環
6 水圏の環境と物質の循環
7 地圏の環境と物質の循環
8 演習：宇宙と地球を考える
9 地球環境の変遷と生命の変遷
10 現在の地球環境と植生分布
11 環境と生態系
12 都市のエネルギー消費とヒートアイランド現象
13 地球温暖化をめぐる世界の動き
14 演習：生命と都市を考える
15 地球環境問題を考える視点

【備考】
環境系のコア科目として多くの学生の受講を期待する。

環境と工学・工業社会（Environment, Engineering, Industrialized Society）**佐藤杉弥、成田健一、八木田浩史**

全学科 教養科目（環境系）
2年 秋学期2単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
現代社会に”もの”を積極的に創造し提供して行く、すなわち、地球・自然・人間社会によくも悪くも能動的に影響を与える、あるいは、与えてしまう工学を目指す学生諸君へ環境を配慮した工学・工業社会へ向けてのあり方を、各学科からの毎年異なるテーマと複数教員によるオムニバス形式の講義。

【成績評価】
期末試験30%、演習課題レポート70%

【テキスト】
必要に応じてプリントを配布

【参考図書】

【準備学習】自分が専門としようとする工学分野で、環境に関する問題や環境適応技術にどのようなものがあるか、具体例を自分なりに調べておくこと。

【授業計画】
1 工学・工業と環境のかかわり
2 プロダクトデザインと環境
3 メカニクスと環境
4 新しいものづくりと環境
5 新エネルギーと環境
6 マイクロ・ナノ工学と環境
7 ロボット技術と環境
8 エレクトロニクスデザインと環境
9 エネルギー制御と環境
10 コンピュータネットワークと環境
11 ソフトウェアデザインと環境
12 建築・都市デザインと環境
13 構造・環境エンジニアリングと環境
14 住空間・福祉空間デザインと環境
15 工学・工業社会と人間・環境（まとめ）

【備考】
環境系のコア科目として多くの学生の受講を期待する。具体的な担当者とテーマは事前に掲示する。

気象（Meteorology）**物理教員**

全学科 教養科目（環境系）
3年 秋学期2単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
「気象」とは、大気中で起こるもろもろの現象を指す。それらはどうして起こるのか、また起こらないのか。地球大気には水蒸気があり、絶え間ない相変化を通して気象に大きな影響を与えている。気象を面白くそしてむずかしくしている原因の一つである。さらには、活発な人間活動の結果として、地球温暖化の原因物質である炭酸ガスが大気中で確実に増えている。大気環境問題は、気象学の重要な応用問題の一つである。本講義では、気象が持つ様々な側面を統一的に捉える視点の習得を達成目標とする。

【成績評価】
期末試験

【テキスト】
小倉義光著 『一般気象学』東京大学出版会

【参考図書】

【準備学習】毎回の授業で用いるpower pointファイルは後でInfo-campusにuploadする。教科書とこのファイルの併用による復習に力点を置く。

【授業計画】
1 気象学って何だ！？
2 地球の大気＋放射過程
3 乾燥大気の熱力学
4 湿潤大気の熱力学
5 降水過程
6 大気に作用する力
7 力のバランスで決まる風
8 Globalな大気の運動
9 総観規模現象：高気圧
10 総観規模現象：低気圧
11 風をともなうメソ現象
12 雨をともなうメソ現象
13 気候変動と大気環境問題
14 天気図と天気予報
15 防災気象情報

【備考】

地球科学（Earth Science）**物理教員**

全学科 教養科目（環境系）
2年 秋学期2単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
宇宙スケール --銀河系や太陽系-- の中で地球がどのような存在であるのかと言う視点からはじめて、固体地球や気候変動などについての理解を深める。基礎的な物理科学の知識をベースにして地球の構造と性質について学んだ後、地球を多面的に理解する。特に地球環境問題についてグローバルな視点で考える力を養う。

【成績評価】
期末試験70%、レポート30%

【テキスト】
プリント配布、インフォキャンパスに資料を掲載

【参考図書】

【準備学習】
配布プリントを読んでおくこと、プリントの章末問題を解答して次の講義に備えること。

【授業計画】
1 宇宙の中の地球－宇宙構造、銀河、太陽、元素の生成
2 惑星の分類と特徴、太陽系の形成、系外惑星
3 地球の誕生、巨大衝突と月の形成
4 地球の形と力学的性質、自転と公転
5 地球の内部構造－地震波の伝播と内部構造
6 地球の電磁気的性質－地磁気、ダイナモ理論
7 高層大気、オーロラ、電離層
8 気候変動、太陽活動と気候、ミランコビッチ理論
9 地球の熱収支と気候変動－温暖化、核の冬
10 変動する地球、プレートとプルームの活動
11 地震、火山、資源
12 地球全史、生命のはじまり
13 オゾンホールの問題、分子と電磁波、放射線、紫外線
14 温室効果とは何か、物質のミクロな性質と環境
15 地球環境と宇宙

【備考】

環境化学基礎実験（Fundamental Experiment on Environmental Chemistry）小野雄策、八木田浩史

全学科 教養科目 (環境系)
２年 春学期（集中講義) １単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
本講座は一般的な環境測定の基礎をみにつけるため、「私たちを取り巻く環境の見える化」を実験により実証する。大気・土壌・水などの環境媒体の質を計測して、私たちの身の回りの環境の質を理解する。また、環境試料のサンプリング方法や環境計測技術を習得する。

【成績評価】
レポート

【テキスト】
プリント配布

【参考図書】
日本工業規格(JIS) K0102(工場排水試験方法)

【準備学習】
地域環境の質をWEB等で調べ自分の考えを整理しておくこと。

【授業計画】
1 私たちを取り巻く環境の見える化
2 コンターマップの作り方
3 大気のサンプリング手法
4 大気の試料調整法
5 大気汚染物質の測定方法
6 大気汚染地図の作成
7 土壌のサンプリング手法
8 土壌試料の調整方法
9 土壌汚染物質の測定方法
10 土壌汚染地図の作成
11 河川水等の採水手法
12 河川水等の試料調整手法
13 水質測定法(pH, EC, CODなど)
14 水質測定法(機器分析：TOCなど)
15 河川水等水質データの解析手法

【備考】

環境化学応用実験（Applied Experiment on Environmental Chemistry）小野雄策、八木田浩史

全学科 教養科目 (環境系)
２年 秋学期（集中講義) １単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
本講座は私たちが製品に使用している有害物質による環境への影響を知るため、「私たちの生活製品に含まれる有害物質の見える化」を実験により実証する。私たちが使用している電子機器類などの製品中に含まれる重金属濃度を測定する。さらに、これらが焼却処理などによって廃棄処分されたとき、この廃棄物による環境への影響を計測し、我々の生活製品のあり方を考える。

【成績評価】
レポート

【テキスト】
プリント配布

【参考図書】
日本工業規格(JIS) K0102(工場排水試験方法)

【準備学習】
電子機器類の規制法であるRoHS指令や製品中の有害物質の管理の仕方を調べておく。

【授業計画】
1 私たちの生活製品に含まれる有害物質の見える化
2 簡易型蛍光X線分析計の使用法
3 高周波プラズマ発光分光分析計(ICP/AES)の使用法
4 含有量分析と溶出試験について
5 試料の採取法と調整法について
6 電子機器類の試料の調整方法
7 電子機器類の重金属類の含有量試験
8 電子機器類の重金属類の溶出試験
9 電子機器類の重金属類のデータ解析
10 廃棄物（廃棄処理された製品）の試料調整方法
11 廃棄物の含有量試験
12 廃棄物の溶出試験
13 廃棄物の重金属類のデータ解析
14 レポート作成（電子機器類）
15 レポート作成（廃棄物）

【備考】

健康管理論（Theory of health care）体育教員

全学科 教養科目（保健体育系）
1 年 春秋学期 2 単位（週 1 時限）選択科目

【授業の目標】
心身とともにバランスのとれた健康で活動的な生活が出来る健康生活実践の素地を培う事を目標とする。そのため、生活習慣病やストレスの要因、また、生涯にわたって身体運動を実践するためトレーニングの原則論や方法等を幅広く学ぶ。

【授業計画】
1 健康の概念
2 アルコール体質テスト
3 寿命と健康
4 食生活と健康
5 生活習慣病の予防法
6 アスリートの栄養の摂り方
7 消化器の構造と機能
8 骨格と筋肉の構造
9 感染症の予防
10 ストレスと心身の健康
11 体力の概念
12 トレーニングの原則論
13 トレーニングの方法と生理的効果
14 運動と疲労
15 スポーツ傷害と予防法

【成績評価】
学期末試験７０％、平常点３０％の総合評価

【テキスト】
適宜プリントを配布する。

【参考図書】

【準備学習】授業で配布したプリントにの空欄を埋めて、持参する事。次回の授業内容について説明するので、予習するとともに質問を考えておく事。

【備考】

スポーツⅠ（Sports I）体育教員

全学科 教養科目（保健体育系）
1 年 春学期 1 単位（週 1 時限）選択科目

【授業の目標】
「スポーツⅠ」は、バレーボール、テニス、ソフトボール種目の中から１種目を選択します。各種目において、それぞれ特有の技能や技術を学習することにより、スポーツの楽しさを理解します。また、集団の中での個人の役割や責任を考えさせることにより協調性を養っていきます。

【授業計画】
1 ガイダンス・スポーツ種目の選択や班分けの説明
2 各種目の基礎技術の習得（個人技能の理解）
3 各種目の基礎技術の習得（集団技能の理解）
4 各種目の基礎技術の習得（ルール・審判の理解）
5 各種目の基礎技術の習得（技術的な理解）
6 各種目の基礎技術の習得（個人・集団技能）
7 各種目の応用技術（個人・集団技能）
8 各種目の目標達成
9 各種目の連携プレー
10 各種目の個人技能
11 各種目の技能と戦術
12 各種目の応用技能
13 各種目の個人・集団技能
14 各種目の総合技術の習得
15 個人技術と総合評価

【成績評価】
技能テスト・実技への取り組み

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】規則の理解に勉め各自の達成目標を設定して講義に望むことが望ましい。安全に、存分にからだを動かすための準備してください。

【備考】

スポーツⅡ（Sports Ⅱ）体育教員

全学科 教養科目（保健体育系）
1 年 秋学期 1 単位（週 1 時限）選択科目

【授業の目標】
「スポーツⅡ」は、バスケットボール、サッカー、ゴルフ種目の中から１種目を選択します。各種目において、それぞれ特有の技能や技術を学習することにより、スポーツの楽しさを理解します。また、集団の中での個人の役割や責任を考えさせることにより協調性を養っていきます。

【授業計画】
1 ガイダンス・スポーツ種目の選択や班分けの説明
2 各種目の基礎技術の習得（個人技能の理解）
3 各種目の基礎技術の習得（集団技能の理解）
4 各種目の基礎技術の習得（ルール・審判の理解）
5 各種目の基礎技術の習得（技術的な理解）
6 各種目の基礎技術の習得（個人・集団技能）
7 各種目の応用技術（個人・集団技能）
8 各種目の目標達成
9 各種目の連携プレー
10 各種目の個人技能
11 各種目の技能と戦術
12 各種目の応用技能
13 各種目の個人・集団技能
14 各種目の総合技術の習得
15 個人技術と総合評価

【成績評価】
技能テスト・実技への取り組み

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】規則の理解に勉め各自の達成目標を設定して講義に望むことが望ましい。安全に、存分にからだを動かすための準備してください。

【備考】

スポーツⅢ（Sports Ⅲ）体育教員

全学科 教養科目（保健体育系）
２年 春学期１単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
「スポーツⅢ」は、バレーボール、テニス、ソフトボール種目の中から１種目を選択します。スポーツの実践を通じて、自己の健康や体力、運動能力の向上を目指します。また、集団の中での自己管理能力の基礎を築けるよう指導します。

【成績評価】
技能テスト・実技への取り組み

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】規則の理解に勉め各自の達成目標を設定して講義に望むことが望ましい。安全に、存分にからだを動かすための準備してください。

【授業計画】
1 ガイダンス・スポーツ種目の選択や班分けの説明
2 各種目の基礎技術の習得（個人技能の理解）
3 各種目の基礎技術の習得（集団技能の理解）
4 各種目の基礎技術の習得（ルール・審判の理解）
5 各種目の基礎技術の習得（技術的な理解）
6 各種目の基礎技術の習得（個人・集団技能）
7 各種目の応用技術（個人・集団技能）
8 各種目の目標達成
9 各種目の連携プレー
10 各種目の個人技能
11 各種目の技能と戦術
12 各種目の応用技能
13 各種目の個人・集団技能
14 各種目の総合技術の習得
15 個人技術と総合評価

【備考】

スポーツⅣ（Sports IV）体育教員

全学科 教養科目（保健体育系）
２年 秋学期１単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
「スポーツⅣ」は、バスケットボール、サッカー、ゴルフ種目の中から１種目を選択します。スポーツの実践を通じて、自己の健康や体力、運動能力の向上を目指します。また、集団の中での自己管理能力の基礎を築けるよう指導します。

【成績評価】
技能テスト・実技への取り組み

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】規則の理解に勉め各自の達成目標を設定して講義に望むことが望ましい。安全に、存分にからだを動かすための準備してください。

【授業計画】
1 ガイダンス・スポーツ種目の選択や班分けの説明
2 各種目の基礎技術の習得（個人技能の理解）
3 各種目の基礎技術の習得（集団技能の理解）
4 各種目の基礎技術の習得（ルール・審判の理解）
5 各種目の基礎技術の習得（技術的な理解）
6 各種目の基礎技術の習得（個人・集団技能）
7 各種目の応用技術（個人・集団技能）
8 各種目の目標達成
9 各種目の連携プレー
10 各種目の個人技能
11 各種目の技能と戦術
12 各種目の応用技能
13 各種目の個人・集団技能
14 各種目の総合技術の習得
15 個人技術と総合評価

【備考】

生涯スポーツⅠ（Lifetime Sports I）体育教員

全学科 教養科目（保健体育系）
３年 春学期１単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
活力ある社会生活を送るためには、生涯スポーツを日常化させることが大切である。この授業では様々な運動種目が用意されているが、その全てが生涯スポーツに役立つものである。また、定期的に運動する事は、自らの健康を維持・増進させる事ができる。

【成績評価】
毎時間の技能テスト及び学期末技能テスト

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】規則の理解に勉め各自の達成目標を設定して講義に望むことが望ましい。安全に、存分にからだを動かすための準備してください。

【授業計画】
1 スポーツ種目の選択
2 基本技術の習得と身体ならし
3 基本技術の習得と連携プレーの習得
4 応用技術の習得とグループでのプレー習得
5 応用技術の習得と戦術の理解
6 応用技術の習得とルールの理解
7 応用技術の習得と審判講習
8 各種目の目標達成
9 チームを編成し、ゲーム進行の話し合い
10 チーム戦術の確認とゲーム
11 攻防の実践的練習とゲーム
12 全体でゲーム前の個人練習とゲーム
13 チームで攻防の応用練習とゲーム
14 チームでグループ練習とゲーム
15 個人技術と総合評価

【備考】

生涯スポーツⅡ（Lifetime Sports Ⅱ）体育教員

全学科 教養科目（保健体育系）
3年 秋学期 1単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
スポーツは人間の心身の発達を促すとともに、フェアープレー精神を大切にする事により人間関係をも養う事ができる。日常の健康管理に注意しながら、選択した種目を通じて積極的に運動を行う態度を身につける。

【成績評価】
毎時間の技能テスト及び学期末技能テスト

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】規則の理解に勉め各自の達成目標を設定して講義に望むことが望ましい。安全に、存分にからだを動かすための準備してください。

【授業計画】
1 スポーツ種目の選択
2 応用技術の習得とコンデションづくり
3 種目における応用技術の習得と連係プレー
4 チーム編成とグループでの攻撃及び防御の練習
5 個人技術の習得とチーム戦術の総合理解
6 ルールの理解とゲーム進行の打ち合わせ
7 審判技術の習得とゲーム
8 各種目の目標達成
9 攻劇及び防御の実践的練習とゲーム
10 全体で試合前の個人技術習得とゲーム
11 戦術の確認と攻撃及び防御の練習とゲーム
12 ルールの再確認とゲーム
13 全体でゲーム終了後に戦術の再確認
14 チーム練習とゲーム
15 個人技術と総合評価

【備考】

生涯スポーツⅢ（Lifetime Sports Ⅲ）体育教員

全学科 教養科目（保健体育系）
4年 春学期 1単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
各個人がそれぞれ健康維持を心がけて長く生活する中では、気分転換を図るためにも、学生のうちにいろいろなスポーツ種目を経験しておくことは意義がある。また、他人との交流もあるので心の健康も引き出せるところが大きい。

【成績評価】
毎時間の技能テスト及び学期末技能テスト

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】規則の理解に勉め各自の達成目標を設定して講義に望むことが望ましい。安全に、存分にからだを動かすための準備してください。

【授業計画】
1 種目選択とエクササイズ
2 身体ならしとストレッチング
3 コンデションづくりと持久力トレーニング運動
4 チームを編成しゲーム進行の話し合い
5 グループで個人技術の習得
6 全体で応用技術の習得とゲーム
7 戦術の理解と審判講習とゲーム
8 各種目の目標達成
9 攻撃及び防御の実践的練習とゲーム
10 ゲーム前の個人技術習得とゲーム
11 チーム再編成と戦術の総合理解
12 試合前の戦術ミーティングとゲーム
13 試合後に攻撃及び防御の基本確認
14 チーム練習とゲーム
15 個人技術と総合評価

【備考】

生涯スポーツⅣ（Lifetime Sports IV）体育教員

全学科 教養科目（保健体育系）
4年 秋学期 1単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
生涯にわたって健康な人生を築くためにスポーツの素晴らしさを理解するとともに、無理をせず、長く、楽しく身体活動を続けることに重点をおいている。また、雨天時等ではトレーニング室を利用し、ストレッチングやウエイトトレーニングの方法等幅広く学ぶ。

【成績評価】
毎時間の技能テスト及び学期末技能テスト

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】規則の理解に勉め各自の達成目標を設定して講義に望むことが望ましい。安全に、存分にからだを動かすための準備してください。

【授業計画】
1 種目選択とエクササイズ
2 身体ならしとストレッチング
3 チーム編成と体力づくり
4 チームで戦術をたて、一人ひとりの役割を決める
5 ルールとマナーの確認とリーグ戦の実施
6 応用技術の習得とゲーム
7 チームで戦術の理解とゲーム
8 各種目の目標達成
9 コンデションづくりとゲーム
10 ゲームの実施
11 チーム再編成と個人技術の習得
12 戦術の理解ミーティングとゲーム
13 攻撃及び防御練習とゲーム
14 チーム練習とゲーム
15 個人技術と総合評価

【備考】

基礎英語Ⅰ（Basic English Ⅰ）英語教員

全学科 教養科目（言語系）
1年 春学期 1単位（週1時限）必修科目

【授業の目標】
この講義では日常の挨拶・自己紹介の表現を身につけながら、平叙文・疑問文・命令文、さらに存在構文のthere is/are～を学習することを目的とする。特にこの講義は五感を用いた基礎演習を重要視する。授業では外国人講師とのコミュニケーションアクティビティーを行い、英語発信の基礎技能を学ぶためのペアワーク、グループワークを行う。また、毎回感覚的に基礎学習したことをレポートとして提出する。

【成績評価】平常点（最終レポート提出を含む）70%、試験（小テストを含む）30%

【テキスト】Helgesen, M. 他 『English Firsthand Access』Pearson Longman

【参考図書】

【準備学習】毎回の授業は自発的に参加し、発言することが求められる。必ずテキスト／ワークブックを持参し授業に臨むこと。

【授業計画】
1 Introduction, Unit 0 Welcome to English Firsthand Access
2 Unit 0 Welcome to English Firsthand Access
3 Unit 1 How are you? (1) Preview
4 Unit 1 How are you? (2) Activity
5 Unit 1 How are you? (3) Language check
6 Unit 1 How are you? (Review)
7 Unit 2 Do you understand? (1) Preview
8 Unit 2 Do you understand? (2) Activity
9 Unit 2 Do you understand? (3) Language check
10 Unit 2 Do you understand? (Review)
11 Unit 3 This is my room. (1) Preview
12 Unit 3 This is my room. (2) Activity
13 Unit 3 This is my room. (3) Language check
14 Unit 3 This is my room. (Review)
15 Summary

【備考】授業には毎回英和辞書、和英辞書を必ず持参すること。細かい内容については担当講師の指示に従うこと。

基礎英語Ⅱ（Basic English Ⅱ）英語教員

全学科 教養科目（言語系）
1年 秋学期 1単位（週1時限）必修科目

【授業の目標】
この講義では日常生活・家族紹介の表現を身につけながら、疑問文への応対、Wh疑問文・some/any＋名詞の複数形の使い方を学習することを目的とする。特にこの講義は五感を用いた反復演習を重要視する。授業では外国人講師とのコミュニケーションアクティビティーを行い、英語発信の基礎技能を身につけるためのペアワーク、グループワークを行う。また、毎回基礎の定着学習したことをレポートとして提出する。

【成績評価】平常点（最終レポート提出を含む）70%、試験（小テストを含む）30%

【テキスト】Helgesen, M. 他 『English Firsthand Access』 Pearson Longman

【参考図書】

【準備学習】毎回の授業は自発的に参加し、発言することが求められる。必ずテキスト／ワークブックを持参し授業に臨むこと。

【授業計画】
1 Introduction, Review from unit 0～3
2 Unit 4 When do you get up? (1) Preview
3 Unit 4 When do you get up? (2) Activity
4 Unit 4 When do you get up? (3) Language check
5 Unit 4 When do you get up? (Review)
6 Unit 5 Who' s this? (1) Preview
7 Unit 5 Who' s this? (2) Activity
8 Unit 5 Who' s this? (3) Language check
9 Unit 5 Who' s this? (Review)
10 Unit 6 That' s a great shirt! (1) Preview
11 Unit 6 That' s a great shirt! (2) Activity
12 Unit 6 That' s a great shirt! (3) Language check
13 Unit 6 That' s a great shirt! (Review)
14 Review
15 Summary

【備考】授業には毎回英和辞書、和英辞書を必ず持参すること。細かい内容については担当講師の指示に従うこと。

Advanced English Ⅰ（Advanced English Ⅰ）英語教員

全学科 教養科目（言語系）
1年 秋学期 1単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
基本的な英語技能をすでに習得し、さらに高度な英語運用能力を習得したい学生を対象に、読む・書く・発表するという技能を高めることを目的とする。英文法的内容については言語使用の際の、細かなニュアンスのずれなどを理解しながら学習していく。
事前のプレースメントテストによって、基本的な英語技能を修得しているかどうかを判断し、この講義の受講許可を与える。授業では各個人の能力に応じて指導を行っていく。

【成績評価】平常点（発表、最終提出レポートなど）70%、試験（小テストを含む）30%

【テキスト】
担当教員の指示に従う。

【参考図書】『Oxford Advanced Learner's Dictionary』、『Oxford Living Grammar』

【準備学習】ほぼ個別指導に近い形で授業を行うので、当然予習してくることが前提となります。また辞書を必ず持参して授業に臨んでください。

【授業計画】
1 ニュアンスの違い−Present simple & present contiuous 1
2 ニュアンスの違い−Present simple & present contiuous 2
3 ニュアンスの違い−Present perfect & present continuous 1
4 ニュアンスの違い−Present perfect & present continuous 2
5 ニュアンスの違い−Aux & present countinous for the future
6 ニュアンスの違い−Modal auxiliaries (root) 1
7 ニュアンスの違い−Modal auxiliaries (root) 2
8 ニュアンスの違い−Modal auxiliaries (epistemic) 1
9 ニュアンスの違い−Modal auxiliaries (epistemic) 2
10 ニュアンスの違い−Pronoun, article & proform 1
11 ニュアンスの違い−Pronoun, article & proform 2
12 ニュアンスの違い−Adjectives & adverbs 1
13 ニュアンスの違い−Adjectives & adverbs 2
14 ニュアンスの違い−Preposition 1
15 ニュアンスの違い−Preposition 2

【備考】
なお、この科目は必修科目の基礎英語Ⅱに替わり、必修の単位と出来る。

実用英語Ⅰ（Practical English Ⅰ）英語教員

全学科 教養科目（言語系）
２年 春学期 1 単位（週 1 時限）必修科目

【授業の目標】
この講義ではスポーツなどの趣味や食べ物などの嗜好に関する表現を身につけながら、副詞、可算名詞・不可算名詞、進行形の使い方を学習することを目的とする。特にこの講義は日頃の実践的な基礎演習を重要視する。授業では外国人講師とのコミュニケーションアクティビティーを行い、英語発信の基礎技能を向上させるためのペアワーク、グループワークを行う。また、毎回実践的に基礎学習したことをレポートとして提出する。

【成績評価】平常点（最終レポート提出を含む）70%、試験（小テストを含む）30%

【テキスト】Helgesen, M. 他 『English Firsthand Access 及び Workbook』 Pearson Longman

【参考図書】

【準備学習】毎回の授業は自発的に参加し、発言することが求められる。必ずテキスト／ワークブックを持参し授業に臨むこと。

【授業計画】
1 Introduction, Unit 0 Welcome to English Firsthand Access
2 Unit 0 Welcome to English Firsthand Access
3 Unit 7 I love weekends! (1) Preview
4 Unit 7 I love weekends! (2) Activity
5 Unit 7 I love weekends! (3) Language check
6 Unit 7 I love weekends! (Review)
7 Unit 8 Let's eat! (1) Preview
8 Unit 8 Let's eat! (2) Activity
9 Unit 8 Let's eat! (3) Language check
10 Unit 8 Let's eat! (Review)
11 Unit 9 I really enjoy it! (1) Preview
12 Unit 9 I really enjoy it! (2) Activity
13 Unit 9 I really enjoy it! (3) Language check
14 Unit 9 I really enjoy it! (Review)
15 Summary

【備考】授業には毎回英和辞書、和英辞書を必ず持参すること。細かい内容については担当講師の指示に従うこと。

実用英語Ⅱ（Practical English Ⅱ）英語教員

全学科 教養科目（言語系）
２年 秋学期 1 単位（週 1 時限）必修科目

【授業の目標】
この講義ではさまざまな物の位置関係や、週末・休暇中の出来事などに関する表現を身につけながら、場所を示す前置詞、過去時制・未来時制を学習することを目的とする。特にこの講義は日頃の実践的な発展演習を重要視する。授業では外国人講師とのコミュニケーションアクティビティーを行い、英語発信の基礎技能を発展させるためのペアワーク、グループワークを行う。また、毎回実践的に発展学習したことをレポートとして提出する。

【成績評価】平常点（最終レポート提出を含む）70%、試験（小テストを含む）30%

【テキスト】Helgesen, M. 他 『English Firsthand Access 及び Workbook』 Pearson Longman

【参考図書】

【準備学習】毎回の授業は自発的に参加し、発言することが求められる。必ずテキスト／ワークブックを持参し授業に臨むこと。

【授業計画】
1 Introduction, Review from unit 7〜9
2 Unit 10 Welcome to my home. (1) Preview
3 Unit 10 Welcome to my home. (2) Activity
4 Unit 10 Welcome to my home. (3) Language check
5 Unit 10 Welcome to my home. (Review)
6 Unit 11 Where did you go? (1) Preview
7 Unit 11 Where did you go? (2) Activity
8 Unit 11 Where did you go? (3) Language check
9 Unit 11 Where did you go? (Review)
10 Unit 12 Will I be famous? (1) Preview
11 Unit 12 Will I be famous? (2) Activity
12 Unit 12 Will I be famous? (3) Language check
13 Unit 12 Will I be famous? (Review)
14 Review
15 Summary

【備考】授業には毎回英和辞書、和英辞書を必ず持参すること。細かい内容については担当講師の指示に従うこと。

実用英語Ⅲ（Practical English Ⅲ）英語教員

全学科 教養科目（言語系）
３年 春学期 1 単位（週 1 時限）選択科目

【授業の目標】
様々な英文にチャレンジするために、辞書を有効に使う方法を学びながら、広告・メニューまたは比較的平易な文章を用いてスキャニング・スキルの習得を図る。英文を読む際にはパラグラフの構造に注意し、同時に、基本的な構造のパラグラフを書くことも試みる。学期終了時には英文から得た情報を自分の言葉でまとめることや、身近な話題について簡単な英文で論理的に展開できる能力を身につけることを目標とする。

【成績評価】平常点３０％（提出物等含む）、試験７０％の割合で評価する。

【テキスト】
担当教員が教室で指示する。

【参考図書】

【準備学習】テキストの進む範囲で意味、発音、使い方などの分からない語や表現がないか目を通して、そのような語や表現があったら、辞書で調べておく。

【授業計画】
1 英文からの情報の集め方・読み解き方
2 メニュー：語彙の理解
3 メニュー：スキャニングの基礎
4 広告：語彙の理解
5 広告：スキャニングの練習
6 広告：スキャニングの実践
7 英作文原案作成
8 パラグラフの構造
9 パラグラフ・リーディングの基礎
10 パラグラフ・リーディングの練習
11 パラグラフ・ライティング
12 英作文草稿作成
13 コンピューター上のメッセージ：語彙の理解
14 コンピューター上のメッセージ：表現の理解
15 英作文最終稿の確認

【備考】
英和辞書、和英辞書を毎回必ず持参すること。詳しい内容については担当教員が教室で説明する。

実用英語Ⅳ（Practical English Ⅳ）英語教員

全学科 教養科目（言語系）
３年 秋学期１単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
テキストから離れ、実際に使われている英語で書かれた情報を読み、理解し、自分の言葉でまとめ、発表する。具体的には英文で書かれた新聞記事・雑誌・WEBなどから様々なトピックを選び、辞書を用いて独力で読み、内容を詳細かつ正確に理解し情報収集を行う。また得た情報を簡単な英文を用いて自分の言葉で要約する。学期終了時には、プロジェクトワークとして、要約した内容のプレゼンテーションをできる能力を身につけることを目標とする。

【成績評価】平常点３０％（提出物等含む）、試験７０％の割合で評価する。

【テキスト】
担当教員が教室で指示する。

【参考図書】

【準備学習】テキストの進む範囲で意味、発音、使い方などの分からない語や表現がないか目を通して、そのような語や表現があったら、辞書で調べておく。

【授業計画】
1 英文の構造の理解
2 新聞記事：全体像の把握
3 新聞記事：見出しの理解
4 新聞記事：スキミングの基礎
5 発表原案作成
6 雑誌記事：スキミングの練習
7 雑誌記事：スキミングの実践
8 雑誌記事：要約の仕方
9 Ｗｅｂ上の英文：語彙の理解
10 Ｗｅｂ上の英文：要約の練習
11 Ｗｅｂ上の英文：要約の実践
12 発表草稿提出
13 マニュアル：語彙の理解
14 マニュアル：表現の理解
15 発表と相互評価

【備考】
英和辞書、和英辞書を毎回必ず持参すること。詳しい内容については担当教員が教室で説明する。

英会話Ⅰ（English Ⅰ）英語教員

全学科 教養科目（言語系）
３年 春学期１単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
この講座の目標は頭の中にまとまった英語像を作り出せるようになることです。日本語同様言語の全体像が頭になくて言葉は使えません。英語が使えるようになるということは英語の考え方すなわち英語の全体的な把握ができるようになることです。暗記した会話表現を口にすることが英語を使うことではありません。英語の全体像が把握できれば英語が話せます。言葉を言えれば書けます。異文化理解も含め、場面に応じた英語が使えるようになりましょう。

【成績評価】授業への参加度、準備度50%、オーラル・プレゼンテーションの結果50%

【テキスト】
『文法も身につく日常会話3500』テイエス企画

【参考図書】

【準備学習】
英語教育センターでの外国人語学講師との各テーマに関する事前学習や会話訓練を授業前に必ず行うこと。

【授業計画】
1 あいさつする
2 相槌をうつ
3 あげる、手渡す
4 うわさする
5 婉曲に言う、丁寧に言う
6 確認する
7 聞き返す
8 許可を求める
9 答える
10 断る、わびる
11 注意を引く
12 話を始める、話を促す、話を終わらせる
13 Presentationの方法
14 Presentation Ⅰ（手順）
15 Presentation II（実践）

【備考】

英会話Ⅱ（English Ⅱ）英語教員

全学科 教養科目（言語系）
３年 秋学期１単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
この講座の目標は英会話Iと同様に、頭の中にまとまった英語像を作り出せるようになることです。英語の全体的な把握ができるようになると、英語の考え方が理解できるようになります。より現実的な場面を通して、相手の情報を得る技術を身につけながら、英語が話せるようになります。最終段階では学生が英語でPresentationを行うことができるレベルに達します。

【成績評価】授業への参加度、準備度及びオーラル・プレゼンテーションの結果

【テキスト】
『文法も身につく日常会話3500』テイエス企画

【参考図書】

【準備学習】英語教育センターで外国人語学講師と行う各自が設定した課題への取り組み、及び各回の授業のテーマに関する事前準備や会話訓練

【授業計画】
1 買い物
2 外食、食事
3 公共の場で（銀行など）
4 時間の概念
5 電話
6 道順
7 予約
8 自己紹介、他己紹介
9 身体と感覚I（味覚、聴覚、触覚）
10 身体と感覚II(感覚、聴覚、視覚）
11 体調、診察、薬
12 慣用表現
13 Presentationの方法
14 Presentation Ⅰ（手順）
15 Presentation II（実践）

【備考】

海外英語セミナー（Overseas English and Culture Program）英語教員

全学科 教養科目（言語系）
1～4年２単位 選択科目

【授業の目標】
主に英語が用いられている地域において、現地の人々に触れ、異文化理解を深めるとともに、国際的な技術者となりうる姿勢と英語力を身につけることを目的とする。英語研修はバンクーバー（カナダ）にあるブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)で行い、研修中はカナダ人家庭にホームステイする。授業以外にも課外活動のなかで英語を使う機会が設けられている。帰国後にはお礼の手紙の作成を行い、会話練習やTOEIC対策も適宜設ける。

【成績評価】事前学習30％、研修の成績（UBC認定）60％、帰国後レポート10％により評価する。

【テキスト】
担当教員が教室にて配布する。

【参考図書】

【準備学習】
海外留学について調べておくこと。

【授業計画】
1 カナダの基本情報を英語で読む
2 バンクーバーの基本情報を英語で読む
3 ＵＢＣの基本情報を英語で読む
4 現地情報（英語）収集法
5 自己紹介の英会話：導入
6 自己紹介の英会話：応用
7 自己紹介の英会話：練習
8 ホームステイ申込書（英語）作成：内容の検討
9 ホームステイ申込書（英語）作成：作文と記入
10 現地情報（英語）の発表：バンクーバー
11 現地情報（英語）の発表：その他の地域
12 海外生活の英会話：導入
13 海外生活の英会話：応用
14 海外生活の英会話：練習
15 渡航書類の作成（英文）と最終確認

【備考】
本年度セミナーの詳しい内容はパンフレットを参照すること。

機械英語広場Ⅰ（Plaza of English for Mechanical Engineering Ⅰ）宮澤肇、佐藤雄治

機械工学科 教養科目(言語系)
1年 春学期 1単位（週1時限）発展 必修科目

【授業の目標】
近年、日本のものづくりの拠点の海外移転が進み、若い技術者が海外で活躍する機会が増大している。また、インターネット等を介して海外の最新情報も容易に入手できるようになった。それに伴って、技術者に対する専門英語のニーズが年々高くなってきている。本科目の目標は、機械産業の中で重要な位置を占める「ものづくり」をキーワードに、その基礎的事柄を題材に英語の力を養うことにある。授業には英語Native教員も参加し、生きた英語を学習する。

【成績評価】
期末試験７０％、課題提出物３０％

【テキスト】Dep. of Mechanical Engin.: Introduction to Manufacturing Technology

【参考図書】 職業訓練教材研究会編『Fundamental of Machining System』

【準備学習】
単語の意味を調べた上でテキストを熟読しておくこと。

【授業計画】
1 数字、日付の読み方
2 小数と分数の読み方
3 簡単な数式の読み方
4 複雑な数式の読み方
5 棒材や板材の表現
6 立体形状の表現
7 金属の種類
8 鉄系材料の種類
9 多用される非鉄合金　－アルミニウム合金－
10 多用される非鉄合金　－銅合金－
11 軽金属の種類と特徴
12 非金属材料
13 軽作業工具
14 締付け、固定工具
15 仕上げ加工工具

【備考】

機械英語入門Ⅰ（Introduction to English for Mechanical Engineers Ⅰ）佐藤雄治、機械工学科教員

機械工学科 教養科目(言語系)
1年 春学期 1単位（週1時限）集中 必修科目

【授業の目標】
近年、日本のものづくりの拠点の海外移転が進み、若い技術者が海外で活躍する機会が増大している。それに伴って、技術者に対する専門英語のニーズが年々高くなってきている。本科目の目標は、機械産業の中で重要な位置を占める「ものづくり」をキーワードに、英語の力を養うと共に専門基礎知識をも習得することにある。なお、授業には英語Native教員も参加し、生きた英語を学習する。

【成績評価】
期末試験７０％、課題提出物３０％

【テキスト】Dep. of Mechanical Engin.: Introduction to Manufacturing Technology

【参考図書】 職業訓練教材研究会編『Fundamental of Machining System』

【準備学習】
単語の意味を調べた上でテキストを熟読しておくこと。

【授業計画】
1 基数、序数、大きな数字の読み方
2 小数、分数の読み方
3 四則演算
4 数式と記号
5 棒材と管材
6 板材とブロック
7 炭素鋼
8 合金鋼
9 アルミニウムとその合金
10 銅とその合金
11 マグネシウム、チタンとその合金
12 プラスチックとセラミック
13 ドライバー
14 ハンマ、スパナ
15 やすり、サンドペーパー

【備考】

機械英語広場Ⅱ（Plaza of English for Mechanical Engineering Ⅱ）宮澤肇、佐藤雄治

機械工学科 教養科目 (言語系)
1 年 秋学期 1 単位（週 1 時限）発展 必修科目

【授業の目標】
機械英語広場Ⅰの続編である。近年、日本のものづくりの拠点の海外移転が進み、若い技術者が海外で活躍する機会が増大している。それに伴って、技術者に対する専門英語のニーズが年々高くなってきている。本科目は、このような状況を背景に開発されたものであり、その目標は、機械産業の中で重要な位置を占める「ものづくり」をキーワードに、その基礎的事柄を題材に英語の力を養うことにある。なお、授業には英語Native教員も参加し、生きた英語を学習する。

【成績評価】
期末試験７０％、課題提出物３０％

【テキスト】Dep. of Mechanical Engin.: Introduction to Manufacturing Technology

【参考図書】職業訓練教材研究会編『Fundamental of Machining System』

【準備学習】
単語の意味を調べた上でテキストを熟読しておくこと。

【授業計画】
1 直尺の種類と測定精度
2 ノギスとその測定原理
3 マイクロメータとその測定原理
4 旋盤を構成する要素の概略
5 バイト等の工具を移動するための構成要素
6 穴あけ、長軸加工のための構成要素
7 切削バイトを使用した加工
8 ドリルや特殊工具を使用した加工
9 切削条件
10 切削油
11 工作センターでの実地学習
12 金属材料の展延性を利用した加工
13 冷間加工と熱間加工
14 圧延加工とせん断加工
15 絞り加工と曲げ加工

【備考】

機械英語入門Ⅱ（Introduction to English for Mechanical Engineers Ⅱ）佐藤雄治、機械工学科教員

機械工学科 教養科目 (言語系)
1 年 秋学期 1 単位（週 1 時限）集中 必修科目

【授業の目標】
機械英語入門Ⅰの続編である。近年、日本のものづくりの拠点の海外移転が進み、若い技術者が海外で活躍する機会が増大している。それに伴って、技術者に対する専門英語のニーズが年々高くなってきている。本科目は、このような状況を背景に開発されたものであり、その目標は、機械産業の中で重要な位置を占める「ものづくり」をキーワードに、英語の力を養うと共に専門基礎知識をも習得することにある。なお、授業には英語Native教員も参加し、生きた英語を学習する。

【成績評価】
期末試験７０％、課題提出物３０％

【テキスト】Dep. of Mechanical Engin.: Introduction to Manufacturing Technology

【参考図書】職業訓練教材研究会編『Fundamental of Machining System』

【準備学習】
単語の意味を調べた上でテキストを熟読しておくこと。

【授業計画】
1 スケール
2 ノギス
3 マイクロメータ
4 旋盤とは（ベッド、主軸、主軸台）
5 往復台、横送り台、刃物台
6 心押台、心押軸
7 加工の種類と使用工具　―外丸・テーパ・端面削り―
8 加工の種類と使用工具　―穴あけ・成形切削―
9 切削条件
10 切削油
11 工作センターでの実地学習
12 塑性加工とは
13 塑性加工の原理
14 圧延・押出し・引抜き加工
15 打抜き・曲げ・深絞り加工

【備考】

エコ・イングリッシュⅠ（Eco English I）貫井光男

ものづくり環境学科 教養科目（言語系）
1 年 春学期 1 単位（週 1 時限）必修科目

【授業の目標】
地球環境などの環境問題や、ものづくりに関連した簡単な英文を読みながら、環境関連専門用語、工学基礎用語、技術文献における頻出単語を理解し、記憶することに重点をおく。秋学期の「エコ・イングリッシュⅡ」における英文解読のための基礎力を養成する。

【成績評価】
期末試験、課題

【テキスト】
開講時に指示する。

【参考図書】
佐藤博著『英語で考える環境問題』産業環境管理協会

【準備学習】
指示された予習・復習を必ず行うこと。

【授業計画】
1 英語学習のテクニック
2 地球温暖化用語（Greenhouse Effect）
3 地球温暖化用語（Global Warming）
4 環境問題用語（Carbon Footprint）
5 環境問題用語（Electricity）
6 再生可能エネルギー
7 エネルギー問題の基礎用語（Biomass）
8 エネルギー問題の基礎用語（Fuel Cell）
9 エネルギー問題の基礎用語（Solar Power）
10 エネルギー問題の基礎用語（Wind Power）
11 廃棄物・リサイクルの基礎用語（Waste）
12 廃棄物・リサイクルの基礎用語（3R）
13 サステナビリティ
14 エコシティ・エコタウン
15 総合演習と講評

【備考】

エコ・イングリッシュⅡ（Eco English Ⅱ）鈴木宏典

ものづくり環境学科 教養科目（言語系）
1 年 秋学期 1 単位（週 1 時限）必修科目

【授業の目標】
環境問題に関する話題を毎週取り上げ、これを日本語及び英語で解説することにより、環境問題の英語による表現を習得することを目的とする。また、毎週、環境に関するキーワードを英語及び日本語で書き取らせ、基礎的な英単語を学習する。さらに、ネイティブ講師による環境問題の解説を英語で行うことにより、英語リスニングに慣れさせる。

【授業計画】
1 English for environment issues
2 municipal waste
3 biofuel & biomass
4 cogeneration
5 daylight saving time
6 acid rain and acidification
7 deforestation
8 biodiversity
9 mid-term exam
10 extended producer responsibility
11 plastic (checkout) bag
12 sustainability (fishing)
13 traffic emission
14 low emission vehicles
15 transport systems and environment

【成績評価】
中間試験30%、期末試験50%、演習課題20%

【テキスト】
必要に応じて各講義でプリントを配布。

【参考図書】佐藤博著『英語で考える環境問題』産業環境管理協会

【準備学習】
「エコイングリッシュI」の内容を復習しておくこと。

【備考】
毎回、必ず英和辞書を持参すること。毎回、演習と単語テストを行う。

システム英語（発展）（English for Systems Engineering）三宅正二郎、伴雅人

創造システム工学科 教養科目（言語系）
1 年 春学期 1 単位（週 1 時限）発展 必修科目

【授業の目標】
工学における英語の必要性を理解するとともに、工学に関する身近な題材に触れることで英語に対する苦手意識をなくし、楽しく英語の基礎を学習する方法を身につける。

【授業計画】
1 工学における英語の必要性
2 リーディング①　数式と計算の表現
3 リーディング②　表とグラフの表現
4 リーディング③　環境問題を読み解くキーワード
5 ライティング①　自己紹介文の作成
6 ライティング②　技術単語を身につける
7 ライティング③　最近のトピックス
8 リスニング①　映像を使ったリスニングの学び方
9 リスニング②　最新の映画
10 リスニング③　海外技術ドキュメンタリー
11 スピーキング①　よく使うトップ10キーフレーズ
12 スピーキング②　海外出張１　空港での会話
13 スピーキング③　海外出張２　ホテル等での会話
14 総合学習
15 まとめと講評

【成績評価】
出席60%、レポート・小テスト40%

【テキスト】
『システム英語』

【参考図書】

【準備学習】
高校までに学習した基本単語および英文法について十分に復習しておくこと。

【備考】

システム英語（集中）（English for Systems Engineering）三宅正二郎、伴雅人

創造システム工学科 教養科目（言語系）
1 年 春学期 1 単位（週 1 時限）集中 必修科目

【授業の目標】
工学における英語の必要性を理解するとともに、工学に関する身近な題材に触れることで英語に対する苦手意識をなくし、楽しく英語の基礎を学習する方法を身につける。

【授業計画】
1 工学における英語の必要性
2 リーディング①　数式と計算の表現
3 リーディング②　表とグラフの表現
4 リーディング③　環境問題を読み解くキーワード
5 ライティング①　自己紹介文の作成
6 ライティング②　技術単語を身につける
7 ライティング③　最近のトピックス
8 リスニング①　映像を使ったリスニングの学び方
9 リスニング②　最新の映画
10 リスニング③　海外技術ドキュメンタリー
11 スピーキング①　よく使うトップ10キーフレーズ
12 スピーキング②　海外出張１　空港での会話
13 スピーキング③　海外出張２　ホテル等での会話
14 総合学習
15 まとめと講評

【成績評価】
出席60%、レポート・小テスト40%

【テキスト】
『システム英語』

【参考図書】

【準備学習】
高校までに学習した基本単語および英文法について十分に復習しておくこと。

【備考】

実践システム英語（発展）（Practical English for Systems Engineering）**渡部修一、佐野健一**

創造システム工学科 教養科目（言語系）
1 年 秋学期 1 単位（週 1 時限）発展 必修科目

【授業の目標】
産業の国際化によって、英語は技術者にとって必要不可欠なテクニカルコミュニケーションツールとなっている。本講義では、科学・工学に関わる実用上の題材を利用した実践的な英語学習をおこなう。英語で書かれたマニュアルや科学技術論文のリーディングとライティング、インストラクションビデオを使ったリスニング、ネイティブ教員を交えたコミュニケーションを通して、技術者や研究者として必要な英語の基礎能力を身につける。

【成績評価】
出席60%、レポート・小テスト40%

【テキスト】
『実践システム英語』

【参考図書】

【準備学習】
「システム英語」の内容を復習しておくこと。辞書を必ず持参すること。

【授業計画】
1 工学における実践的な英語の学習
2 リーディング① 自動車のマニュアル
3 リーディング② デジタル機器のマニュアル
4 リーディング③ 科学技術論文に挑戦
5 ライティング① 理系単語を書いて覚える
6 ライティング② 英文技術レポートの構成と書き方
7 ライティング③ 科学技術論文の構成と書き方
8 リスニング① ディクテーションに挑戦
9 リスニング② 映画を使ってリスニング力向上
10 リスニング③ Instructional Videoに挑戦
11 コミュニケーション① 外国の会社訪問
12 コミュニケーション② 電子メールとFaxの使い方
13 コミュニケーション③ 国際会議での発表
14 総合学習
15 まとめと講評

【備考】
「システム英語」の達成度に応じ、ベーシッククラスとアドバンスクラスに分かれて学修する。辞書持参。

実践システム英語（集中）（Practical English for Systems Engineering）**渡部修一、佐野健一**

創造システム工学科 教養科目（言語系）
1 年 秋学期 1 単位（週 1 時限）集中 必修科目

【授業の目標】
産業の国際化によって、英語は技術者にとって必要不可欠なテクニカルコミュニケーションツールとなっている。本講義では、科学・工学に関わる実用上の題材を利用した実践的な英語学習をおこなう。英語で書かれたマニュアルや科学技術論文のリーディングとライティング、インストラクションビデオを使ったリスニング、ネイティブ教員を交えたコミュニケーションを通して、技術者や研究者として必要な英語の基礎能力を身につける。

【成績評価】
出席60%、レポート・小テスト40%

【テキスト】
『実践システム英語』

【参考図書】

【準備学習】
「システム英語」の内容を復習しておくこと。

【授業計画】
1 工学における実践的な英語の学習
2 リーディング① 自動車のマニュアル
3 リーディング② デジタル機器のマニュアル
4 リーディング③ 科学技術論文に挑戦
5 ライティング① 理系単語を書いて覚える
6 ライティング② 英文技術レポートの構成と書き方
7 ライティング③ 科学技術論文の構成と書き方
8 リスニング① ディクテーションに挑戦
9 リスニング② 映画を使ってリスニング力向上
10 リスニング③ Instructional Videoに挑戦
11 コミュニケーション① 外国の会社訪問
12 コミュニケーション② 電子メールとFaxの使い方
13 コミュニケーション③ 国際会議での発表
14 総合学習
15 まとめと講評

【備考】
「システム英語」の達成度に応じ、ベーシッククラスとアドバンスクラスに分かれて学修する。辞書持参。

電気英語Ⅰ（発展）（Technical English for Electrical Engineers Ⅰ）**宇賀神守、小倉常雄**

電気電子工学科 教養科目（言語系）
1 年 春学期 1 単位（週 1 時限）発展 必修科目

【授業の目標】
我国産業の国際化は近年顕著であり、電気電子系では特にその傾向が強い。技術者は取扱説明書・仕様書・図面・Ｅメール等を使用してテクニカルコミュニケーション（技術情報の交換）を行う世界に次第に慣れ親しんでいかなければならない。そこで行われるやり取りは一般に平易な英文で行われているので、まずは、技術に関連する語彙と表現を豊かにして、極簡単な技術説明文に応用することにより、基本的なテクニカルコミュニケーションのスキルを身に付けることを目標としている。

【成績評価】
期末試験（70%）、演習課題（30%）

【テキスト】
インフォキャンパス配布テキストによる

【参考図書】
菅原和士著『工学英語Ⅰ』日本理工出版

【準備学習】工業高校で学んだ[工業基礎」、「工業数理」および「電気基礎」等の内容を英語で学ぶので、必要に応じそれらの教科書を参照して復習すること。

【授業計画】
1 一般英語と技術英語の違い
2 直線・曲線等の用語と表現
3 平面図形の用語と表現
4 立体図形の用語と表現
5 重さの用語と表現
6 時間の用語と表現
7 運動の用語と表現
8 ベーシックな家電の用語
9 ＡＶ機器の用語
10 パソコン・デジカメおよびメディア関係の基本用語
11 インターネットおよびＬＡＮ関係の基本用語
12 電圧・電流・抵抗の表現
13 基本的な電気部品用語
14 整数・実数・序数と少数・分数の表現
15 加減乗除の表現および数式の表現

【備考】

電気英語Ⅰ（集中）（Technical English for Electrical Engineers Ⅰ）**山越博、水谷巽**

電気電子工学科 教養科目（言語系）
1 年 春学期 1 単位（週 1 時限）集中 必修科目

【授業の目標】
我国産業の国際化は近年顕著であり、電気電子系では特にその傾向が強い。技術者は取扱説明書・仕様書・図面・Ｅメール等を使用してテクニカルコミュニケーション（技術情報の交換）を行う世界に次第に慣れ親しんでいかなければならない。そこで行われるやり取りは一般に平易な英文で行われているので、まずは、技術に関連する語彙と表現を豊かにして、極簡単な技術説明文に応用することにより、基本的なテクニカルコミュニケーションのスキルを身に付けることを目標としている。

【成績評価】
期末試験（70％）、演習課題（30％）

【テキスト】
インフォキャンパス配布テキストによる

【参考図書】
菅原和士著『工学英語Ｉ』日本理工出版

【準備学習】
高等学校で学んだ［物理」の内容を英語で学ぶので、必要に応じそれらの教科書を参照して復習すること。

【授業計画】
1 一般英語と技術英語の違い
2 直線･曲線等の用語と表現
3 平面図形の用語と表現
4 立体図形の用語と表現
5 重さの用語と表現
6 時間の用語と表現
7 運動の用語と表現
8 ベーシックな家電の用語
9 ＡＶ機器の用語
10 パソコン・デジカメおよびメディア関係の基本用語
11 インターネットおよびＬＡＮ関係の基本用語
12 電圧・電流・抵抗の表現
13 基本的な電気部品用語
14 整数・実数・序数と少数・分数の表現
15 加減乗除の表現および数式の表現

【備考】

電気英語Ⅱ（発展）（Technical English for electrical engineers Ⅱ）**木村貴幸、小倉常雄**

電気電子工学科 教養科目（言語系）
1 年 秋学期 1 単位（週 1 時限）発展 必修科目

【授業の目標】
わが国産業の国際化に伴い、技術者は英文技術書を読み、英語でEメールの交換を行うことが必須になっている。一般に、英語による技術情報の交換は正確を期するために平易な英文で行われる。このため、まずは技術に関連した語彙を増やし、多くのやさしい構文を通読できることが必要である。
英語の技術語彙の増強を狙う「電気英語I」 を受けて、「電気英語II」 ではやさしい技術文書を読み、最低限の技術情報を読めるのみならず、技術文書を英語で作成する今後の基礎にしたい。

【成績評価】
期末試験70%、演習課題30%

【テキスト】
菅原和士著『工学英語I』日本理工出版会

【参考図書】

【準備学習】
これまでの英語科目の復習を充分にしておくこと。

【授業計画】
1 技術英語を学ぶ目的・方法・効果・評価
2 平面と立体の図形
3 幾何的関係の表現
4 物質と状態による分類
5 数とその大小・順位
6 量、寸法と各種単位
7 質量・力・仕事と仕事率
8 電流・電圧と電力
9 パソコンの構造と各モジュールのはたらき
10 電気自動車の構造とはたらき
11 情報と通信・ネットワーク
12 キルヒホッフの法則と電気回路
13 抵抗・キャパシタ・コイルのダイナミックス
14 各種発電方式
15 数式表現・関数

【備考】

電気英語Ⅱ（集中）（Technical English for electrical engineers Ⅱ）**山越博、水谷巽**

電気電子工学科 教養科目（言語系）
1 年 秋学期 1 単位（週 1 時限）集中 必修科目

【授業の目標】
わが国産業の国際化に伴い、技術者は英文技術書を読み、英語でEメールの交換を行うことが必須になっている。一般に、英語による技術情報の交換は正確を期するために平易な英文で行われる。このため、まずは技術に関連した語彙を増やし、多くのやさしい構文を通読できることが必要である。
英語の技術語彙の増強を狙う「電気英語I」 を受けて、「電気英語II」 ではやさしい技術文書を読み、最低限の技術情報を読めるのみならず、技術文書を英語で作成する今後の基礎にしたい。

【成績評価】
期末試験70%、演習課題30%

【テキスト】
菅原和士著『工学英語I』日本理工出版会

【参考図書】

【準備学習】
これまでの英語科目の復習を充分にしておくこと。

【授業計画】
1 技術英語を学ぶ目的・方法・効果・評価
2 平面と立体の図形
3 幾何的関係の表現
4 物質と状態による分類
5 数とその大小・順位
6 量、寸法と各種単位
7 質量・力・仕事と仕事率
8 電流・電圧と電力
9 パソコンの構造と各モジュールのはたらき
10 電気自動車の構造とはたらき
11 情報と通信・ネットワーク
12 キルヒホッフの法則と電気回路
13 抵抗・キャパシタ・コイルのダイナミックス
14 各種発電方式
15 数式表現・関数

【備考】

情報英語Ⅰ（発展）（Computer English Ⅰ）**情報工学科教員、田中佳子**

情報工学科 教養科目（言語系）
1年 春学期 1単位（週1時限）発展 必修科目

【授業の目標】
工業高校卒業生にとっておなじみの主に「ものづくり」に関連した身近な情報機器を教材に用いて、初歩から英語を学習する。教室での講義に加えて、情報処理演習室等で現物を見ながらの実地学習も行う。高等学校での英語学習が不十分であることを前提とする。

【成績評価】
期末試験70%、演習課題30%

【テキスト】
授業の中で指定する。

【参考図書】

【準備学習】
予習・復習をしっかりと行うこと。

【授業計画】
1 全体説明
2 身近にあるコンピュータ（1）：パソコン
3 身近にあるコンピュータ（2）：スマートフォン
4 身近にあるコンピュータ（3）：インテリジェント家電
5 身近にある周辺機器（1）：ディスプレイ
6 身近にある周辺機器（2）：キーボード
7 身近にある周辺機器（3）：プリンタ
8 コンピュータの内部構造を見てみよう（1）：マイクロプロセッサ
9 コンピュータの内部構造を見てみよう（2）：CPU
10 コンピュータの内部構造を見てみよう（3）：メモリ
11 コンピュータの内部構造を見てみよう（4）：ディスク
12 コンピュータをもっと詳しく調べてみよう（1）：トランジスタ
13 コンピュータをもっと詳しく調べてみよう（2）：論理素子
14 コンピュータをもっと詳しく調べてみよう（3）：論理回路
15 コンピュータをもっと詳しく調べてみよう（4）：アーキテクチャ

【備考】
授業計画は、変更される可能性がある。

情報英語Ⅰ（集中）（Computer English Ⅰ）**情報工学科教員**

情報工学科 教養科目（言語系）
1年 春学期 1単位（週1時限）集中 必修科目

【授業の目標】
普通高校卒業生にとってなじみの薄い「ものづくり」に関連した身近な情報機器を教材に用いて英語を学習する。高等学校で英語を十分に学んできたことを前提とする。教室での講義に加えて、情報処理演習室等で現物を見ながらの実地学習も行う。

【成績評価】
期末試験70%、演習課題30%

【テキスト】
授業の中で指定する。

【参考図書】

【準備学習】
予習・復習をしっかりと行うこと。

【授業計画】
1 全体説明
2 身近にあるコンピュータ（1）：パソコン
3 身近にあるコンピュータ（2）：スマートフォン
4 身近にあるコンピュータ（3）：インテリジェント家電
5 身近にある周辺機器（1）：ディスプレイ
6 身近にある周辺機器（2）：キーボード
7 身近にある周辺機器（3）：プリンタ
8 コンピュータの内部構造を見てみよう（1）：マイクロプロセッサ
9 コンピュータの内部構造を見てみよう（2）：CPU
10 コンピュータの内部構造を見てみよう（3）：メモリ
11 コンピュータの内部構造を見てみよう（4）：ディスク
12 コンピュータをもっと詳しく調べてみよう（1）：トランジスタ
13 コンピュータをもっと詳しく調べてみよう（2）：論理素子
14 コンピュータをもっと詳しく調べてみよう（3）：論理回路
15 コンピュータをもっと詳しく調べてみよう（4）：アーキテクチャ

【備考】
授業計画は、変更される可能性がある。

情報英語Ⅱ（発展）（Computer English Ⅱ）**情報工学科教員、田中佳子**

情報工学科 教養科目（言語系）
1年 秋学期 1単位（週1時限）発展 必修科目

【授業の目標】
工業分野全般、とりわけ情報工学分野において共通して必要な基礎的事項について、英語ではどのように表現するかを学習する。高等学校での英語学習が不十分であることを前提とする。

【成績評価】
期末試験70%、演習課題30%

【テキスト】
授業の中で指定する。

【参考図書】

【準備学習】
予習・復習をしっかりと行うこと。

【授業計画】
1 全体説明
2 いろいろな数字の読み方（基数、序数、大きな数）
3 いろいろな数字の読み方（小数、分数）
4 四則演算（1）：2の補数表現
5 四則演算（2）：加算と乗算
6 コンピュータの各部分を英語で見てみよう
7 プログラミング言語でよく見る用語（1）：GOTO
8 プログラミング言語でよく見る用語（2）：IF
9 プログラミング言語でよく見る用語（3）：WHILE
10 コンピュータネットワークでよく見る用語（1）：LAN
11 コンピュータネットワークでよく見る用語（2）：WAN
12 コンピュータネットワークでよく見る用語（3）：IP
13 ヒューマンメディアでよく見る用語（1）：WWW
14 ヒューマンメディアでよく見る用語（2）：Web 2.0
15 ヒューマンメディアでよく見る用語（3）：CG

【備考】
授業計画は、変更される可能性がある。

情報英語Ⅱ（集中）（Computer English Ⅱ）**情報工学科教員**

情報工学科 教養科目（言語系）
1 年 秋学期 1 単位（週 1 時限）集中 必修科目

【授業の目標】
工業分野全般、とりわけ情報工学分野において共通して必要な基礎的事項について、英語ではどのように表現するかを学習する。高等学校での英語学習が不十分であることを前提とする。

【成績評価】
期末試験70%、演習課題30%

【テキスト】
授業の中で指定する。

【参考図書】

【準備学習】
予習・復習をしっかりと行うこと。

【授業計画】
1 全体説明
2 いろいろな数字の読み方（基数、序数、大きな数）
3 いろいろな数字の読み方（小数、分数）
4 四則演算（１）：２の補数表現
5 四則演算（２）：加算と乗算
6 コンピュータの各部分を英語で見てみよう
7 プログラミング言語でよく見る用語（１）：GOTO
8 プログラミング言語でよく見る用語（２）：IF
9 プログラミング言語でよく見る用語（３）：WHILE
10 コンピュータネットワークでよく見る用語（１）：LAN
11 コンピュータネットワークでよく見る用語（２）：WAN
12 コンピュータネットワークでよく見る用語（３）：IP
13 ヒューマンメディアでよく見る用語（１）：WWW
14 ヒューマンメディアでよく見る用語（２）：Web 2.0
15 ヒューマンメディアでよく見る用語（３）：CG

【備考】
授業計画は、変更される可能性がある。

建築英語Ⅰ（発展）（Expanding the World of Architecture Ⅰ）**田中厚子**

建築学科 教養科目（言語系）
1 年 春学期 1 単位（週 1 時限）発展 必修科目

【授業の目標】
高校で建築を学んできた学生が、１年の学習を通じて、建築の分野で用いられる基本的な英語表現を実際に使えるようにする。「建築英語Ⅰ」では以下の内容を学ぶ。（１）重要単語100と5つの重要表現の、読み、書き、発音を習得する。（２）北米近代における代表的な建築を視覚的に理解したうえで、それらの特徴を英文から学び、建築と英語の両方に親しむ。（３）毎回、外国人教員を迎え、発音練習と簡単な会話により、ネイティブの生きた英語を学ぶ。

【成績評価】試験（60%）、提出物（20%）、授業への取り組み姿勢（20%）

【テキスト】
『Introduction to Modern American Architecture』

【参考図書】

【準備学習】授業で解説された基本単語・基本表現はすぐに復習し、読み、書き、発音の習得に努めること。その際、英語教育センターの活用が望ましい。

【授業計画】
1 建築・建築・建築家
2 建築空間を楽しむ
3 ギャンブル邸（１）図面を読む
4 ギャンブル邸（２）建築の特徴
5 ロビー邸（１）図面を読む
6 ロビー邸（２）建築の特徴
7 フランク・ロイド・ライトの住宅
8 基本英単語と構文（前半）まとめ
9 シカゴの高層建築
10 クラウン・ホール
11 ファンズワース邸
12 落水荘（１）図面を読む
13 落水荘（２）建築の特徴
14 基本英単語と構文（後半）まとめ
15 英語で図面を作成する

【備考】
DVDやVIDEOを用いた視覚的アプローチを適宜行う。

建築英語Ⅰ（集中）（Introduction to the World of Architecture Ⅰ）**那須秀行**

建築学科 教養科目（言語系）
1 年 春学期 1 単位（週 1 時限）集中 必修科目

【授業の目標】
初めて建築を学ぶ学生が、１年の学習を通じて、建築の分野で用いられる基本的な英語表現を実際に使えるようにする。「建築英語Ⅰ」では以下の内容を学ぶ。（１）建築に関する基本の100単語をベースに図面、構造、材料などに関する英語表現を習得する。（２）海外向けに紹介された日本の住宅事情や国土・気候・経済社会状況等から建築関連を題材に英語表現を学ぶ。（３）適宜、外国人教員を迎え、ヒアリングと発音練習・建築に関する簡単な会話を通して、ネイティブの生きた英語を学ぶ。

【成績評価】試験（50%）、提出物（30%）、授業への取り組み姿勢（20%）

【テキスト】
必要に応じ資料を配布する。

【参考図書】
『Introduction to Modern American Architecture』

【準備学習】授業で解説された基本単語・基本表現はすぐに復習し、読み書き発音の習得に努めること。その際、英語教育センターの活用が望ましい。

【授業計画】
1 海外の建築事例
2 建築図面・室名、構法に関する用語と表現
3 「BUILDING CONSTRUCTION ILLUSTRATED」：概要説明
4 「BUILDING CONSTRUCTION ILLUSTRATED」：室名表現
5 「BUILDING CONSTRUCTION ILLUSTRATED」：構法表現
6 建築･施工に関する用語と表現
7 「Building Skills」：概要説明
8 「Building Skills」：構造に関する表現
9 「Building Skills」：施工に関する表現
10 住宅事情等、建築関連を題材にした用語と表現
11 「A QUICK LOOK AT HOUSING IN JAPAN」：概要説明
12 「A QUICK LOOK AT HOUSING IN JAPAN」：住宅事情
13 「A QUICK LOOK AT HOUSING IN JAPAN」：住宅政策
14 海外へ出る、海外で建築を見る模擬体験
15 まとめ

【備考】
スライド等を用いた視覚的アプローチを適宜行う。毎回必ず英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

建築英語Ⅱ（発展）（Expanding the World of Architecture Ⅱ）守田正志

建築学科 教養科目（言語系）
1 年 秋学期 1 単位（週 1 時限）発展 必修科目

【授業の目標】
「建築英語Ⅰ」に引き続き、高校で建築を学んできた学生が、建築の分野で用いられる基本的な英語表現を実際に使えるようにする。（1）北米近代における代表的な建築を視覚的に理解したうえで、それらの特徴を英文から学び、建築と英語に対する理解と関心を深める。（2）「建築英語Ⅰ」での学習を基礎として、ワークシートに取り組みながら、建築に関する英語表現をより多く習得する。（3）毎回、外国人教員を迎え、発音練習と簡単な会話により、ネイティブの生きた英語を学ぶ。

【成績評価】試験（60%）、提出物（20%）、授業への取り組み姿勢（20%）

【テキスト】
『Introduction to Modern American Architecture』

【参考図書】

【準備学習】授業で解説された基本単語・基本表現はすぐに復習し、読み、書き、発音の習得に努めること。その際、英語教育センターの活用が望ましい。

【授業計画】
1 大学のキャンパス
2 ソーク研究所（1）図面を読む
3 ソーク研究所（2）建築の特徴
4 キンベル美術館とカーンの住宅
5 イームズ邸（1）図面を読む
6 イームズ邸（2）建築の特徴
7 ケース・スタディ・ハウス
8 基本英単語と構文（前半）まとめ
9 グッゲンハイム美術館（1）図面を読む
10 グッゲンハイム美術館（2）建築の特徴
11 グッゲンハイム美術館ビルバオ
12 タリアセン・ウェスト（1）図面を読む
13 タリアセン・ウェスト（2）建築の特徴
14 基本英単語と構文（後半）まとめ
15 英語で図面を作成する

【備考】
「建築英語Ⅰ」の単位未修得者は、本科目を春学期に開講する再履修クラスで受講すること。

建築英語Ⅱ（集中）（Introduction to the World of Architecture Ⅱ）成田剛

建築学科 教養科目（言語系）
1 年 秋学期 1 単位（週 1 時限）集中 必修科目

【授業の目標】
「建築英語Ⅰ」に引き続き、大学で初めて建築の勉強を始めた学生が、建築の分野で用いられる基本的な英語表現を理解し、実際に使えるようにする。（1）世界の著名な建築家による作品を題材に取り上げ、英語短文の読解やキーワードの理解を通して、その建築が持つ意味を学ぶ。（2）「建築英語Ⅰ」での学習を基礎として、課題に取り組みながら、建築に関する英語表現をより多く習得する。（3）適宜、外国人教員を迎え、課題プレゼ・講評の場などを通して、ネイティブの生きた英語を学ぶ。

【成績評価】試験（50%）、提出物（30%）、授業への取り組み姿勢（20%）

【テキスト】
必要に応じプリントを配付。

【参考図書】
『Introduction to Modern American Architecture』

【準備学習】授業で解説された基本単語・基本表現はすぐに復習し、読み、書き、発音の習得に努めること。その際、英語教育センターの活用が望ましい。

【授業計画】
1 春学期の復習
2 課題1「プレーリースタイル」：聞き取り・和訳
3 課題1「プレーリースタイル」：解説・設計
4 課題1「プレーリースタイル」：発表・講評
5 課題2「ユニバーサルスペース」：聞き取り・和訳
6 課題2「ユニバーサルスペース」：解説・設計
7 課題2「ユニバーサルスペース」：発表・講評
8 前半のまとめ
9 課題3「都市の住宅」：聞き取り・和訳
10 課題3「都市の住宅」：解説・設計
11 課題3「都市の住宅」：発表・講評
12 課題4「東南アジアの伝統的住宅」：聞き取り・和訳
13 課題4「東南アジアの伝統的住宅」：解説・設計
14 課題4「東南アジアの伝統的住宅」：発表・講評
15 後半のまとめ

【備考】
「建築英語Ⅰ」の単位未修得者は、本科目を春学期に開講する再履修クラスで受講すること。

デザイン英語Ⅰ（発展）（Expanding the World of Design Ⅰ）勝木祐仁

生活環境デザイン学科 教養科目（言語系）
1 年 春学期 1 単位（週 1 時限）発展 必修科目

【授業の目標】
高校で建築やインテリアを学んできた学生が、1年の学習を通じて、建築や関連するデザインの分野で用いられる基本的な英語表現を実際に使えるようにする。（1）重要単語100と5つの重要表現の、読み、書き、発音を習得する。（2）近現代における建築・家具等のデザインを視覚的に理解したうえで、それらの特徴を英文から学び、デザインの世界と英語の両方に親しむ。（3）毎回、外国人教員を迎え、発音練習と簡単な会話により、ネイティブの生きた英語を学ぶ。

【成績評価】試験（60%）、提出物（20%）、授業への取り組み姿勢（20%）

【テキスト】
授業中に配布

【参考図書】田中厚子ほか 『Introduction to Modern American Architecture』南雲堂フェニックス

【準備学習】授業で解説された基本単語・基本表現はすぐに復習し、読み、書き、発音の習得に努めること。その際、英語教育センターの活用が望ましい。

【授業計画】
1 形の名前
2 色の名前
3 素材の名前
4 住まいに関する用語
5 アメリカの住まい
6 アメリカの家庭生活とデザイン
7 住宅と家具（1）Frank Lloyd Wright
8 住宅と家具（2）Greene & Greene
9 住宅と家具（3）Charles and Ray Eames
10 集合住宅
11 郊外住宅地
12 公園、記念碑
13 高層建築（1）社会的背景・技術的背景
14 高層建築（2）シカゴの摩天楼
15 高層建築（3）ニューヨークの摩天楼

【備考】
DVDやVIDEOを用いた視覚的アプローチを適宜行う。

デザイン英語Ⅰ（集中）(Introduction to the World of Design Ⅰ) **田中隆治**

生活環境デザイン学科 教養科目（言語系）
1 年 春学期 1 単位（週 1 時限）集中 必修科目

【授業の目標】
初めて建築に関する分野を学ぶ学生が、1年の学習を通じて、建築や関連するデザインの分野で用いられる基本的な英語表現を実際に使えるようにする。（1）重要単語100と5つの重要表現の、読み、書き、発音を習得する。（2）近現代における建築・家具等のデザインを視覚的に理解したうえで、それらの特徴を英文から学び、デザインの世界と英語の両方に親しむ。（3）毎回、外国人教員を迎え、発音練習と簡単な会話により、ネイティブの生きた英語を学ぶ。

【成績評価】試験（60%）、提出物（20%）、授業への取り組み姿勢（20%）

【テキスト】
授業中に配布

【参考図書】田中厚子ほか『Introduction to Modern American Architecture』南雲堂フェニックス

【準備学習】授業で解説された基本単語・基本表現はすぐに復習し、読み、書き、発音の習得に努めること。その際、英語教育センターの活用が望ましい。

【授業計画】
1 色の名前
2 素材の名前
3 住まいに関する用語（1）室の名称
4 住まいに関する用語（2）建築の部位
5 アメリカの住まい（1）文化的特徴
6 アメリカの住まい（2）事例紹介
7 アメリカの家庭生活とデザイン（1）食器
8 アメリカの家庭生活とデザイン（2）テキスタイル
9 住宅と家具（1）歴史と文化
10 住宅と家具（2）Frank Lloyd Wright
11 住宅と家具（3）Greene & Greeene
12 住宅と家具（4）Charles and Ray Eames
13 集合住宅
14 郊外住宅地
15 高層建築

【備考】
DVDやVIDEOを用いた視覚的アプローチを適宜行う。

デザイン英語Ⅱ（発展）(Expanding the World of Design Ⅱ) **勝木祐仁**

生活環境デザイン学科 教養科目（言語系）
1 年 秋学期 1 単位（週 1 時限）発展 必修科目

【授業の目標】
「デザイン英語Ⅰ」に引き続き、高校で建築やインテリアを学んできた学生が、建築や関連するデザインの分野で用いられる基本的な英語表現を実際に使えるようにする。（1）近現代における建築や家具等のデザインを視覚的に理解したうえで、それらの特徴を英文から学び、デザインの世界と英語に対する理解を深める。（2）ワークシートに取り組みながら、建築や関連分野で用いられる英語表現を学ぶ。（3）毎回、外国人教員を迎え、発音練習と簡単な会話により、ネイティブの生きた英語を学ぶ。

【成績評価】試験（60%）、提出物（20%）、授業への取り組み姿勢（20%）

【テキスト】
授業中に配布

【参考図書】田中厚子ほか『Introduction to Modern American Architecture』南雲堂フェニックス

【準備学習】授業で解説された基本単語・基本表現はすぐに復習し、読み、書き、発音の習得に努めること。その際、英語教育センターの活用が望ましい。

【授業計画】
1 ネイティブアメリカンのデザイン
2 シカゴ万博
3 アーツアンドクラフツムーブメント
4 アールデコの世界 （1）事例紹介
5 アールデコの世界 （2）社会背景
6 Frank Lloyd Wright （1）作品歴
7 Frank Lloyd Wright （2）作品の特徴
8 Mies van der Rohe （1）作品歴
9 Mies van der Rohe （2）作品の特徴
10 工業化と建築・デザイン（1）産業革命以降
11 工業化と建築・デザイン（2）第二次世界大戦以降
12 ユニバーサルデザイン（1）事例紹介
13 ユニバーサルデザイン（2）社会背景
14 サスティナブルデザイン（1）事例紹介
15 サスティナブルデザイン（2）社会背景

【備考】
DVDやVIDEOを用いた視覚的アプローチを適宜行う。

デザイン英語Ⅱ（集中）(Introduction to the World of Design Ⅱ) **田中隆治**

生活環境デザイン学科 教養科目（言語系）
1 年 秋学期 1 単位（週 1 時限）集中 必修科目

【授業の目標】
「デザイン英語Ⅰ」に引き続き、大学で初めて建築やインテリアの勉強を始めた学生が、関連するデザイン分野における基本的な英語表現を実際に使えるようにする。（1）近現代における建築や家具等のデザインを視覚的に理解したうえで、それらの特徴を英文から学び、デザインの世界と英語に対する理解を深める。（2）ワークシートに取り組みながら、建築や関連分野で用いられる英語表現を学ぶ。（3）毎回、外国人教員を迎え、発音練習と簡単な会話により、ネイティブの生きた英語を学ぶ。

【成績評価】試験（60%）、提出物（20%）、授業への取り組み姿勢（20%）

【テキスト】
授業中に配布

【参考図書】田中厚子ほか『Introduction to Modern American Architecture』南雲堂フェニックス

【準備学習】授業で解説された基本単語・基本表現はすぐに復習し、読み、書き、発音の習得に努めること。その際、英語教育センターの活用が望ましい。

【授業計画】
1 ネイティブアメリカンのデザイン
2 アメリカのモダンデザイン（1）アールデコの世界
3 アメリカのモダンデザイン（2）自動車
4 アメリカのモダンデザイン（3）日用品
5 アメリカの近代建築概説（1）シカゴの摩天楼
6 アメリカの近代建築概説（2）Frank Lloyd Wright
7 アメリカの近代建築概説（3）Mies van der Rohe
8 アメリカの近代建築概説（4）Louis Kahn
9 アメリカの近代建築概説（5）モダニズムとは何か？
10 工業化と建築・デザイン（1）産業革命以降
11 工業化と建築・デザイン（2）第二次世界大戦以降
12 ユニバーサルデザイン（1）事例紹介
13 ユニバーサルデザイン（2）社会背景
14 サスティナブルデザイン（1）事例紹介
15 サスティナブルデザイン（2）社会背景

【備考】
DVDやVIDEOを用いた視覚的アプローチを適宜行う。

ドイツ語Ⅰ（German Ⅰ）大森信明

全学科 教養科目（言語系）
２年 春学期１単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
教科書、辞書の使い方の説明をした後、ドイツ語の発音から学習を始めて、初歩の基本的な文法を習得し、簡単なドイツ語が読めることを目標とします。動詞、名詞、代名詞、前置詞、形容詞などを覚え、ドイツ語の文の構成、構文を学んだ後、やさしい文の読み書きを練習します。ドイツ語圏の自然環境・建築物・自動車工業などの話も交えます。

【成績評価】
期末試験

【テキスト】
教室で指示

【参考図書】
教室で指示

【準備学習】
CDを聴いて読みの練習

【授業計画】
1 発音
2 人称代名詞
3 動詞の現在人称変化
4 名詞の性
5 格の用法
6 複数形
7 命令表現
8 前置詞
9 非人称
10 定冠詞類
11 不定冠詞類
12 分離動詞
13 接続詞
14 話法の助動詞
15 未来と使役

【備考】

ドイツ語Ⅱ（German Ⅱ）大森信明

全学科 教養科目（言語系）
２年 秋学期１単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
簡単なドイツ語の文章の内容を読み取り、発音できることを目標とします。基本的な文法、複合動詞、接続法の人称変化などを含む定型文の例題に数多く触れ、その表現の理解ができるようにします。　辞書を用いて文章を読み、平易で短い文を書くことも試みます。ドイツとそれを取り巻く工業技術、環境技術、芸術文化、歴史的背景なども話題にします。

【成績評価】
期末試験

【テキスト】
授業で指示

【参考図書】
授業で指示

【準備学習】
CDを聴いて読みの練習

【授業計画】
1 形容詞（1）
2 形容詞（2）
3 再帰表現
4 zu 不定詞
5 動詞の３基本形
6 過去形
7 完了形
8 分詞
9 受動表現
10 関係代名詞
11 比較変化
12 不定代名詞、疑問詞
13 接続法
14 非現実話法
15 まとめ

【備考】

ドイツ語会話（German Conversation）大森信明

全学科 教養科目（言語系）
３年 春学期１単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
ドイツ語の基本的な文法をふまえて、場面に応じたコミュニケーションができることを目標とします。これまでに習得したドイツ語の知識を活用しながら、正しい発音と基礎的な表現練習をします。日常会話の領域、海外旅行で予想される事柄、技術交流などの場面を設定し、グループ会話を中心として、語学の基礎力を身に付けます。

【成績評価】
授業内試験と期末試験

【テキスト】
教室で指示

【参考図書】

【準備学習】
「ドイツ語Ⅰ」、「ドイツ語II」で学んだ文法などの復習CDを聴いて読みの練習

【授業計画】
1 ドイツ語の発音
2 挨拶と自己紹介
3 疑問文と否定文
4 聞き返しの仕方
5 数字
6 天候と時間
7 文法のまとめと復習
8 街を歩く
9 食事
10 からだと健康
11 勉強と学校
12 考えや願いの表現
13 ビジネス表現
14 趣味と娯楽
15 政治と社会

【備考】

フランス語Ⅰ（French Ⅰ）フランス語教員

全学科 教養科目（言語系）
２年 春学期１単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
フランス語の初歩的な文法を習得し、実生活で用いられる簡単なフランス語を話したり、書いたりできるようになることを目指します。フランス語のアルファベットについて綴りの読み方や発音の仕方、ものの名前、数字の発音や数え方、基礎的・入門的な文法を学び、さらに簡単な挨拶や自己紹介ができるようにします。辞書を用いて平易で短い文章を読むことにも挑戦します。また、フランスの文化・ファッションなどの話も織り交ぜます。

【成績評価】単元ごとに実施する小テストと授業内の発表で判定します。

【テキスト】
フランソワ・ルーセル著『トーム・アン』 第三書房

【参考図書】須藤著『ゼロから始めるモン・フランセ』駿河台出版社、 猪狩著『フランス語』三修社

【準備学習】
毎回、予習・復習をしっかりしておくこと。

【授業計画】
1 アルファベット、綴り字の読み方、発音の規則
2 フランス語で話してみよう（1）、数字（０～10）
3 自己紹介、動詞 être の直説法現在形
4 第１群規則動詞の直説法現在形、疑問文の作り方（1）
5 好き嫌いを言う
6 名詞の性と数、不定冠詞と定冠詞
7 動詞 avoir の直説法現在形、文化：名前
8 家族を紹介する、不規則動詞直説法現在形 （1）
9 形容詞の性と数、疑問文の作り方（2）、所有形容詞
10 フランス語で話してみよう（2）、文化：フランス地理
11 予定について話す
12 不規則動詞直説法現在形（2）、近接未来と近接過去
13 買い物をする
14 否定文、否定疑問とその答え方、部分冠詞
15 文化：フランスの歴史

【備考】

フランス語Ⅱ（French Ⅱ）フランス語教員

全学科 教養科目（言語系）
２年 秋学期１単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
初歩文法を習得し、簡単なフランス語の文章の内容を理解できることを目標とします。基本的な文法知識を生かしながら、過去の事柄や未来の事柄、自分の考えや希望を言ったり、自分の日常生活を表現する仕方を学習します。また、挨拶の仕方、時間のたずね方、電話での話し方など、実生活で用いられる簡単なフランス語を話したり、書いたりする練習をします。フランスの歴史、国民性と習慣などについてのやさしい紹介文もとりあげます。

【成績評価】単元ごとに実施する小テストと授業内の発表で判定します。

【テキスト】
フランソワ・ルーセル著『トーム・アン』第三書房

【参考図書】須藤著『ゼロから始めるモン・フランセ』駿河台出版社、猪狩著『フランス語』三修社

【準備学習】
毎回、予習・復習をしっかりしておくこと。

【授業計画】
1 時間について話す、疑問形容詞
2 命令形、不規則動詞直説法現在形
3 文化：フランスの歴史
4 過去のことを話す
5 直説法複合過去形
6 文化：フランス人の国民性
7 意思や希望を述べる
8 目的語人称代名詞
9 会話表現、文化：フランス人の生活
10 体調や生活環境について話す
11 代名動詞の直説法現在形、中性代名詞（1）
12 文化：フランスの結婚制度
13 自分の考えを主張する
14 比較級と最上級、中性代名詞（2）
15 文化：フランス人の結婚観

【備考】
「フランス語Ⅰ」の内容を理解していることを前提として授業を行う。

フランス語会話（French Conversation）フランス語教員

全学科 教養科目（言語系）
３年 春学期１単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
これまでに習得した文法知識をもとにしながら、基本的な日常会話を学びます。具体的には、挨拶表現から始めて、名前や年齢、国籍、住所、職業などの尋ね方・答え方、自己紹介の仕方、時刻の尋ね方・答え方、一日のスケジュールや過去にしたことなどです。こうした基本表現を繰り返し練習しながら、正しい発音を身につけ、簡単なフランス語会話ができるようになることを目標とします。

【成績評価】単元ごとに実施する小テストと授業内の発表で判定します。

【テキスト】
中川努他著『フランス語2020』白水社

【参考図書】中川努他著『コレクションフランス語４－話す－』白水社

【準備学習】
毎回、予習・復習をしっかりしておくこと。

【授業計画】
1 自分・相手の名前や住所のたずね方・答え方
2 第三者の名前や住所のたずね方・答え方
3 数字（0～20）
4 年齢や職業のたずね方・答え方
5 数字（21～60）
6 勤務地や国籍のたずね方・答え方
7 電話番号の答え方、数字（61～999）
8 好き嫌いを言う
9 自己紹介をする
10 時刻のたずね方・答え方
11 自分の１日の生活を考える
12 相手・第三者の１日の生活についてたずねる
13 自分の１週間の生活を伝える
14 相手・第三者の１週間の生活についてたずねる
15 復習

【備考】

中国語Ⅰ（Chinese Ⅰ）中国語教員

全学科 教養科目（言語系）
２年 春学期１単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
この授業では、中国語を基礎から学び、わかりやすくかつ確実に基礎語学力を習得することを目指す。中国語は日本語と同様漢字を使う言語なので、それで親近感をおぼえて選択する学生も多いと思うが、授業の最初は発音を表記するのに用いられる「ピンイン」というローマ字の習得から始める。そして発音の基礎を身につけながら、基本的表現　（自己紹介、挨拶や数字など）　を学習していき、中国語を勉強する土台を作る。

【成績評価】
試験・提出物による。

【テキスト】
開講時、指定する。

【参考図書】

【準備学習】
テキストを読むこと。

【授業計画】
1 中国語の発音　（短母音）
2 中国語の発音（四声）
3 中国語の発音（子音）
4 中国語の発音（複母音）
5 名詞文の肯定表現
6 名詞文の否定表現
7 嗎がつく名詞文の疑問表現
8 嗎がつかない名詞文の疑問表現
9 名詞文の推量表現
10 形容詞文の肯定表現
11 形容詞文の否定表現
12 嗎がつく形容詞文の疑問表現
13 嗎がつかない形容詞文の疑問表現
14 名詞文と形容詞文のまとめ
15 総復習

【備考】

中国語Ⅱ（Chinese Ⅱ）中国語教員

全学科 教養科目（言語系）
２年 秋学期１単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
「中国語Ⅱ」の目標は、①積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成、②自分の考えなどを表現する能力の養成、③情報や相手の意向などを理解する能力の養成、④言語や文化に対する理解、の四つの内容から構成されている。中国語の歴史や日本語との触れ合いなど、そして両国の生活習慣や文化の違いについて、卑近な例を豊富に盛り込み、中国語の発音・文型・表現の基本と特徴を分かりやすく説明し、中国語学習の意欲を駆り立てる。さらに言葉を通じて、中国の文化や社会事情にも触れられる。

【成績評価】
試験・提出物による。

【テキスト】
開講時、指定する。

【参考図書】

【準備学習】
テキストを読むこと。

【授業計画】
1 動詞文の存在表現　（肯定）
2 動詞文の存在表現　（否定）
3 動詞文の存在表現　（疑問）
4 動詞文の各表現のまとめ
5 応答の表現　（肯定）
6 応答の表現　（否定）
7 所有の表現
8 動詞文の肯定表現
9 動詞文の否定表現
10 動詞文の疑問表現
11 動詞文・動作の場所
12 動詞文・動作の帰着
13 過去完了の表現
14 過去の経験
15 総復習

【備考】

中国語会話（Chinese Conversation）中国語教員

全学科 教養科目（言語系）
３年 春学期１単位（週１時限）選択科目

【授業の目標】
中国語を駆使し、中国人との簡単な日常会話ができ、且つ中国語およびその背景にある文化に対して関心をもち、若い大学生も興味を持つであろう中国の生活、文化様々な分野について積極的にコミュニケーション活動を行おうとする。中国語の背景にある文化について知識を得ることだけを目標とするのではなく、それらを学ぶことをとおして、自らの文化ひいては文化そのものについての理解を深め、新鮮な発見や比較によって考える力、文化を捉える視点を獲得して視野を広げていくことを目標としている。

【成績評価】
会話テスト・授業中の積極的な練習

【テキスト】
開講時に指示を行う

【参考図書】

【準備学習】
単語を辞書で調べておくこと。

【授業計画】
1 中国語の発音、ピンインのまとめ
2 挨拶と自己紹介
3 これは何ですか
4 これはいかがですか
5 買い物
6 どこにありますか
7 何がありますか
8 何時に行きますか
9 約束
10 道を尋ねる
11 タクシーに乗る
12 友達に電話する
13 ホテルのフロントで
14 訪問
15 会話の復習、会話テスト

【備考】

日本語表現Ⅰ（Japanese Expression Ⅰ）日本語教員

全学科 教養科目（言語系）
1 年 春学期 1 単位（週 1 時限）選択科目

【授業の目標】
外国人留学生の日本語の基礎的な運用能力の養成を目的とする。録音、録画教材を用いて日本語による日常会話（聞く、話す）の訓練、平仮名、基礎的な漢字を用いて簡単な文章の作成（書く）、日本語で書かれた平易な文章（雑誌や新聞の記事などを教材として用いて）の読解（読む）、以上の学習を通して、日本語の語彙や文法知識、表現技法を豊かにし、日本語による会話や文章作成のための基本的な約束ごとを学習する。

【成績評価】
期末試験７０％　課題３０％

【テキスト】
適宜配布する。

【参考図書】

【準備学習】
辞書等で新出語彙を確認しておくこと。

【授業計画】
1 会話表現の特徴（概論）
2 平易な日本語の語彙の獲得
3 日本語の語彙の使い方
4 抽象的な語彙の獲得
5 観念的な語彙の獲得
6 簡単な文章の作成
7 推敲・添削
8 口頭による発表
9 文章による発表
10 文章を読む（詩歌）
11 文章を読む（散文）
12 文章を読んで感想を述べる
13 感想を書く
14 意見・主張を書く
15 文章化したものの相互評価

【備考】

日本語表現Ⅱ（Japanese Expression Ⅱ）日本語教員

全学科 教養科目（言語系）
1 年 秋学期 1 単位（週 1 時限）選択科目

【授業の目標】
外国人留学生の日本語による文章表現能力の養成を目的とする。日本語を用いてある程度まとまった文章（随想風な文章や説明文）を書き、それを人前で発表することを通して、より高度な日本語の運用能力を高める。授業は演習の形で進めていく。与えられた課題についてあらかじめ文章を作成しておき、教室での発表、文章の内容や表現形式について学習者間で質疑応答、相互の批評などの作業の中で日本語による表現技術を高める。

【成績評価】
期末試験７０％　課題３０％

【テキスト】
適宜配布する。

【参考図書】

【準備学習】
課題について予め考えておき、下書き程度のものはつくっておくこと。

【授業計画】
1 文章表現の基礎（概論）
2 抽象的な語彙の獲得
3 観念的な語彙の獲得
4 文学的な語彙の獲得
5 文章の読解(論説文)
6 文章の読解(随想)
7 課題文（論説文）の読解
8 課題文（論説文）の要約
9 課題文（論説文）についての意見の形成
10 課題文（論説文）についての意見の表明
11 ディスカッションⅠ(論説文)
12 文学的文章の鑑賞
13 文学的文章鑑賞後の感想の発表
14 感想文を書く
15 ディスカッションⅡ(感想文)

【備考】

日本語Ⅰ（Japanese Language Ⅰ）日本語教員

全学科 教養科目（言語系）
1 年 春学期 1 単位（週 1 時限）選択科目

【授業の目標】
総合的な日本語能力を育成することを目的として、中級レベルのテキストを用いて、文法、語彙、表現（口頭表現、文章表現）、読解の項目を、講義形式、演習形式を取り混ぜて進めていく。授業中はできるだけ学生の発言を促し、あるいは課題を出して、その課題について口頭及び文章により発表する機会を多く設ける。時には日本人学生を交えて、いろいろな問題について討論などの時間を持ち、豊かでスムーズなコミュニケーションができるような能力を育成する。

【成績評価】
課題提出、期末試験

【テキスト】
すべてプリント教材による。

【参考図書】

【準備学習】
教材を音読し、新出語彙があれば辞書などで調べておくこと。

【授業計画】
1 日本語の基礎Ⅰ（語彙）
2 日本語の基礎Ⅱ（文法）
3 文章を読むⅠ（詩歌）
4 文章を読むⅡ（物語）
5 文章を読むⅢ（随想）
6 文章を読むⅣ（論説文）
7 感想を述べるⅠ（口頭）
8 感想を述べるⅡ（記述）
9 意見を形成する
10 意見を表明するⅠ（口頭）
11 意見を表明するⅡ（記述）
12 ディスカッションの作法
13 ディスカッションの技術
14 演習Ⅰ（口頭表現）
15 演習Ⅱ（文章表現）

【備考】

日本語Ⅱ（Japanese Language Ⅱ）**日本語教員**

全学科 教養科目（言語系）
1年 秋学期 1単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
総合的な日本語能力をより高いレベルで獲得することを目的とする。授業は講義形式、演習形式を取り混ぜた方法をとる。雑誌、新聞から抜粋した文章教材、ラジオやテレビ等から作成した音声教材、映像教材などを利用して、正確に読み取り、正確に聴き取る能力を養成し、さらには、正しく読み取り、聴き取った事柄について自分の感想・意見などを、的確な語彙、正確な文法、表記方法を用いながら、口頭（スピーチ）、文章（小論文）などの形で発表できる能力を獲得する。

【成績評価】
授業内テスト、期末試験

【テキスト】
すべてプリント教材による。

【参考図書】

【準備学習】
予め教材を繰り返し音読し、暗記するなどの努力が必要である。

【授業計画】
1 日本語の語彙（概論）
2 日本語の文法（概論）
3 日本語の会話（概論）
4 日本語の文章（概論）
5 文学的文章（詩歌）の朗読
6 文学的文章（散文）の朗読
7 文学的文章（詩歌）の鑑賞
8 文学的文章（散文）の鑑賞
9 感想の表明Ⅰ（口頭）
10 感想の表明Ⅱ（記述）
11 内容の要約Ⅰ（口頭）
12 内容の要約Ⅱ（記述）
13 論理的な文章の書き方
14 演習（文章の作成）
15 演習（文章の完成）

【備考】

日本語Ⅲ（Japanese Language Ⅲ）**日本語教員**

全学科 教養科目（言語系）
2年 春学期 1単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
外国人留学生が大学における講義や研究に充分に適応できる日本語能力の養成を目的とする。授業は演習の形で進めていく。上質な日本語で書かれている自然、人文、社会等に関わる様々な領域についての文章（論説文、報告文、文学的文章）を教材として、読解能力、要約能力を養成する。また、読み取った内容を日本語を用いて口頭や文章化して発表するための表現技術を学習する。

【成績評価】
期末試験７０％　課題３０％

【テキスト】
適宜配布する。

【参考図書】

【準備学習】
課題文について、重要語句を辞書等で調べておくこと。

【授業計画】
1 辞書の調べ方（国語辞典）
2 辞書の調べ方（漢和辞典）
3 朗読について（概論）
4 朗読について（実践）
5 読解Ⅰ（語彙の確認）
6 読解Ⅱ（文脈の整理）
7 読解Ⅲ（段落の発見）
8 読解Ⅳ（要約の作成）
9 読解Ⅴ（主旨の発見）
10 読解Ⅵ（全体的理解）
11 演習Ⅰ（意見の形成）
12 演習Ⅱ（意見の発表）
13 演習Ⅲ（討論）
14 演習Ⅳ（討論のまとめ）
15 演習Ⅴ（記録する方法）

【備考】

日本語Ⅳ（Japanese Language Ⅳ）**日本語教員**

全学科 教養科目（言語系）
2年 秋学期 1単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
外国人留学生が各自の専門領域において、講義や研究に対応できる程度の高度な日本語能力の完成を目的とする。授業は演習の形で進めていく。日本語で書かれた論文や報告文を早い速度で読みこなす能力の育成を主眼とするが、日本語を用いて、口頭発表、レポートや論文作成等の方法を学習し、高度な表現力の養成も目指す。教材は科学技術や工学領域の論文や報告文を用いる。

【成績評価】
期末試験７０％　課題３０％

【テキスト】
適宜配布する。

【参考図書】

【準備学習】
教材を暗記するまで音読し、重要な語句や構文について予め調べておくこと。

【授業計画】
1 文脈とは何か
2 文の組み立て
3 指示詞がさすもの
4 対義語について
5 類義語について
6 上位語と下位語
7 敬語
8 定義
9 文体
10 自然と言語の関係
11 日本文化概論
12 要約の方法（口頭）
13 要約の方法(記述)
14 文章表現の技法
15 文章表現の評価

【備考】

日本語Ⅴ（Japanese Language Ⅴ）日本語教員

全学科 教養科目（言語系）
3年 春学期 1単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
外国人留学生が各自の専門領域において、研究発表や報告書、論文作成に対応できる極めて高度な日本語能力の完成を目指す。授業は演習の形で進めていく。日本語で書かれた専門書を正確に読みこなし、正確かつ的確な日本語を駆使して、口頭発表、レポートや論文作成等の形式や書式を学習し、高度な表現力を獲得する。教材は科学技術や工学領域の論文や報告文を用いる。

【成績評価】
期末試験、課題の提出

【テキスト】
適宜、用意して教場で配布する。

【参考図書】
適宜、教場で指示ないしは紹介する。

【準備学習】
教材を音読し、内容をある程度理解したうえで教室に来ること。

【授業計画】
1 随想的文章の読解
2 随想的文章の読解後の感想の発表
3 ディスカッションⅠ(感想文)
4 論説文（社会科学）読解
5 論説文（自然科学）読解
6 意見の形成
7 批評の形成
8 ディスカッションⅡ(批評)
9 課題について批評の形成
10 文学的文章（詩歌）の読解
11 文学的文章（散文）の読解
12 読後の感想の発表Ⅰ（口頭）
13 読後の感想の発表Ⅱ（記述）
14 文学的文章（韻文）の鑑賞
15 文学的文章（散文）の鑑賞

【備考】

日本語Ⅵ（Japanese Language Ⅵ）日本語教員

全学科 教養科目（言語系）
3年 秋学期 1単位（週1時限）選択科目

【授業の目標】
外国人留学生が文化的で教養豊かな日本語能力を獲得することを目的とし、さらには日本についての総合的な知識を獲得することをもその目的とする。日本語で書かれた優れた文章や、日本の映像芸術等に触れることにより、日本文化全体、及び日本人の生活習慣や風俗等を学習し、教養豊かな日本語能力を獲得する。授業は講義形式になるが、日本語によるレポートの提出を随時求めることとする。

【成績評価】
期末試験

【テキスト】
すべてプリント教材による。

【参考図書】

【準備学習】
課題文を予め読み込んでおくこと。

【授業計画】
1 人文科学的文章の読解
2 社会科学的文章の読解
3 自然科学的文章の読解
4 工学的文章の読解
5 読解後の批評の形成
6 読解後の意見の形成
7 批評・意見の口頭発表
8 討論Ⅰ(批評・意見)
9 批評・意見の論述
10 人文科学的文章の書き方
11 社会科学的文章の書き方
12 自然科学的文章の書き方
13 下書き・推敲・校正
14 文章化とその発表
15 討論Ⅱ(課題文)

【備考】

心理学－Ｊ（Psychology-J）瀧ヶ崎隆司

機械工学科 教養科目（人間系）実践機械工学プログラム
３年 春学期２単位（週１時限）必修科目

【授業の目標】
心理学の基本的な考え方や知識を幅広く習得し、現実の社会生活における心理学的な問題について自ら考えることができるようになることを目標とする。まず、心理学の研究法、認知心理学、学習心理学といった基礎心理学分野を学ぶ。次に、パーソナリティ、対人関係、集団の心理など、社会生活に直接かかわる内容を学ぶ。最後に職業と密接に関連した産業・組織心理学関連の知見についても学び、エンジニアに必要な教養としての心理学を確実に習得する。

【成績評価】授業中のレポート・課題を30点、期末試験を70点とし、合計で60点以上を合格とする。

【テキスト】浅井千秋編著『心理学をまなぶ』 東海大学出版会(2005)

【参考図書】

【準備学習】
１回目の授業までに教科書第１章を読んでおくこと。
２回目以降の予習範囲については授業で指示する。

【授業計画】
1 心理学の研究法
2 認知心理学Ⅰ(感覚・知覚)
3 認知心理学Ⅱ(記憶)
4 学習心理学Ⅰ(条件づけ)
5 学習心理学Ⅱ(技能の学習)
6 動機づけの理論
7 パーソナリティⅠ(パーソナリティ理論)
8 パーソナリティⅡ（パーソナリティの測定法)
9 モラトリアムとアイデンティティの確立
10 対人関係の心理Ⅰ(対人認知と自己認知)
11 対人関係の心理Ⅱ（コミュニケーション)
12 集団の心理
13 ワークモチベーションとリーダーシップ
14 職場のメンタルヘルス
15 作業心理学、適性検査

【備考】

哲学－Ｊ（Philosophy and Modern Thought-J）大森信明

機械工学科 教養科目（人間系）実践機械工学プログラム
３年 秋学期２単位（週１時限）必修科目

【授業の目標】
哲学、思想の流れをたどりながら、今日に生きる私達を考える。人間、自然、社会についての考えの変遷と、科学の歴史の基礎知識を習得することが課題である。それによって現代技術者としての教養形成が目指される。

【成績評価】
期末試験(100点)で60点以上を合格とする。

【テキスト】
プリント

【参考図書】
個別主題ごとに紹介する。

【準備学習】
高等学校で学んだ「倫理」「世界史」「日本史」などの復習。

【授業計画】
1 哲学で学ばれていること（現代人と哲学)
2 哲学の始まりとポリスの哲学
3 ヘレニズムとヘブライズム（今日に至る二大潮流)
4 古代中国の思想（日本への影響を中心に)
5 仏教の発展（日本への影響を中心に)
6 日本の伝統思想
7 西洋中世の宗教と哲学（「新たな中世」とは)
8 ルネサンスと宗教改革
9 合理論と経験論
10 近現代の社会思想
11 ドイツ理想主義 － カントからヘーゲルへ
12 現代の危機と実存主義（現代人の心を考える)
13 科学革命から情報化社会へ
14 グローバリゼーションとオリエンタリズム
15 全体のまとめをしそれぞれ現代とのつながりを考える

【備考】
哲学は知識のみならず、自ら考えてみるという部分が欠かせません。

文章表現法－Ｊ（Japanese Communication Skills-J）倉本幸弘

機械工学科 教養科目（人間系）実践機械工学プログラム
３年 春学期２単位（週１時限）必修科目

【授業の目標】
文章による表現は、書き手の人格を表現し、正確に考えを伝え、しかも時代を超えて残るという点で極めて優れた表現法といえる。この講義では、日本語の特質、用法を学び、文芸や思想を表現した文章が日本文化に与えた影響などを学ぶ。そして、古今の優れた文章との触れ合いを経て、日本の文化を外国人にも紹介できる知識を獲得し、信頼される文章作法および人を惹きつける文章表現の技術を学び、自己の考えを小論文で正確に表すことができる能力を身につける。

【成績評価】レポート(40点)、期末試験(60点)で60点以上を合格とする。

【テキスト】
『技術者のための文章表現』（担当教員作成の冊子)

【参考図書】
小林康夫・船曳建夫編『知の技法』東京大学出版会

【準備学習】
課題に対して最低限下書き程度の準備をすること。

【授業計画】
1 表現法としての文章作法の意義
2 日本語の起原と構造
3 正しい現代文の構造
4 信頼される日本語交流（誤字誤用を防ぐ)
5 日本文芸の歴史
6 日本文化・伝統と文章
7 文章を書く楽しみ（自己表現文章作法)
8 古典の名作に親しむ（鑑賞：詩歌)
9 古典の名作に親しむ（鑑賞：物語)
10 近・現代文芸の味わい（鑑賞：詩歌)
11 近・現代文芸の味わい（鑑賞：小説)
12 日本の思想と哲学に学ぶ表現
13 科学的評論、論説に学ぶ表現
14 人を惹きつける小論文
15 身近な情報文との接し方および総合演習

【備考】
演習形式で授業する。原則として課題発表・報告を求める。

文学－Ｊ（Literature-J）倉本幸弘

機械工学科 教養科目（人間系）実践機械工学プログラム
３年 秋学期２単位（週１時限）必修科目

【授業の目標】
この講座における「文学」は、科学技術を学ぶ者のためのものである。古代から現代にわたる文学思潮を紹介・解説することで、広く深い教養の獲得を第一の目的としてはいるが、そこからさらに進んで、自ら学んでいる「科学技術」というものを相対化できる視座をも確立しようとするものである。それらの獲得と確立とにより、技術者としての冷静で豊かなコミュニケーション能力の養成を最終的な目的としているのである。授業を聴くだけではなく、この講座で紹介した書物を実際に手にとって読んでくれることを願う。

【成績評価】 レポート(40点)、期末試験(60点)で60点以上を合格とする。

【テキスト】 西谷　修著『夜の鼓動に触れる　戦争論講義』東京大学出版会(1995)

【参考図書】 前田　愛著『ちくま学芸文庫 都市空間のなかの文学』筑摩書房(1992)

【準備学習】
各時間の項目について問題意識を持って授業に参加すること。

【授業計画】
1 概論（科学技術を相対化する視点としての文学）
2 古代の知恵Ⅰギリシャ神話より「プロメテウスの火」
3 古代の知恵Ⅱ古事記より「火の神の誕生」
4 文学と宗教（『死者の書』をめぐって）
5 詩歌に詠われた自然
6 散文文芸に語られた自然
7 近代の目覚めⅠルネッサンス期の文芸思潮
8 近代の目覚めⅡ産業革命期の文芸思潮
9 近代の目覚めⅢ近代西欧文明の基礎となる文芸思潮
10 日本の近代の目覚めⅠ留学の時代 森鷗外を中心に
11 日本の近代の目覚めⅡ留学の時代 魯迅『藤野先生』
12 都市空間のなかの文学Ⅰ『レ・ミゼラブル』より
13 都市空間のなかの文学Ⅱ『舞姫』『三四郎』より
14 現代（ポストモダン）の文芸思潮
15 現代（ポストモダン）の文芸作品

【備考】

法学ーＪ（Law-J）枝根茂

機械工学科 教養科目（社会系）実践機械工学プログラム ３年 春学期２単位（週１時限）必修科目

【授業の目標】
本講座の目的は、法学の基礎的素養を身につけることによって法的解釈の仕方を学ぶことにある。そのために、講義では、社会生活で直面する日常の法律問題や家族と法・企業と法との関係についてできるだけ具体的な事象を例に解説を加えていく。
学生諸君は、頭を柔らかくして自らが当事者ならどのように判断するかの視点で検討してもらいたい。そのためには、社会一般の事象・テレビや新聞等で話題になった事柄に関心を抱き、自分の見解を主張できる訓練をしてもらいたいと思う。

【成績評価】期末試験(70点)、レポート(30点)で60点以上を合格とする。

【テキスト】
開講時に指示をする。

【参考図書】
有斐閣『ポケット六法』2010年版

【準備学習】
日頃から日刊新聞の社会面やテレビのニュースに注目しておくこと。

【授業計画】
1 法とは何か（法と社会生活・法の目的・権利と義務）
2 法の適用（法と裁判）
3 法の適用（裁判基準）
4 法の適用（法の解釈）
5 法の体系（法の分類）
6 法の体系（国家と法）
7 法の体系（犯罪と法）
8 法の体系（家族生活と法）
9 法の体系（財産関係と法）
10 法の体系（労働と法）
11 法の体系（国際社会と法）
12 ケースワーク①バイオテクノロジーと法
13 ケースワーク②産業財産権(著作権・特許権・意匠権)
14 ケースワーク③自衛隊と国際協力（PKO・PKF）
15 総括（法学講義のまとめ）

【備考】

経済学ーＪ（Economics-J）木下富夫

機械工学科 教養科目（社会系）実践機械工学プログラム ３年 秋学期２単位（週１時限）必修科目

【授業の目標】
初めに現代に至る経済思想の流れをたどる。次いで、近代経済学の2つの主要分野の要点をつかむ。マクロ経済学（Macroeconomics）では、適切な経済指標と経済政策、国家経済を動かす仕組み、国内総生産、財政・金融、国民所得、投資、などの意味を、各種統計データとケインズ学派の基礎理論を交えて学ぶ。ミクロ経済学（Microeconomics）では、資源配分、家計、企業、取引市場、株式会社と労働市場、国際経済などの仕組みや作用など、個々の生活に身近な経済事象について学ぶ。

【成績評価】
期末試験（100点満点）で60点以上を合格とする。

【テキスト】
必要に応じてプリントを配布する。

【参考図書】
適宜指示する。

【準備学習】
日々の新聞記事（産業、経済関連）になるべく触れることが好ましい。

【授業計画】
1 経済学とは
2 経済思想史（古典経済学と近代経済学）
3 国内総生産GDP（マクロ経済学1）
4 消費と貯蓄（マクロ経済学2）
5 財政と国債（マクロ経済学3）
6 金融と金利（マクロ経済学4）
7 投資と株式（マクロ経済学5）
8 貨幣・株式・債権等市場（マクロ経済学6）
9 家計・消費者（ミクロ経済学1）
10 企業・生産者（ミクロ経済学2）
11 生産物・サービス市場（ミクロ経済学3）
12 価格の形成（ミクロ経済学4）
13 国際経済と公共経済（ミクロ経済学5）
14 労働市場・株式会社・産業組織論（ミクロ経済学6）
15 工業技術者が持ちたい経済学的視点（講義のまとめ）

【備考】

機械技術史－Ｊ（History of Mechanical Engineering-J）丹治明

機械工学科 教養科目（環境系）実践機械工学プログラム
２年 秋学期２単位（週１時限）選択必修科目

【授業の目標】
歴史とは「創造と変化」の集大成である。歴史を学ぶことで「専門科目の学習意欲の向上」と「創造性の増強」が予想され、技術者・社会人としての生き方を知ることができる。
そこで本講義では、テキストや図・写真資料と本学の工業技術博物館の実物資料等を用いて、機械工学・機械技術等の歴史を講述することで、学生の視野を広げ、創造性育成の教育を実践する。

【成績評価】
期末試験での得点60点以上を合格とする。

【テキスト】
内田星美　著『日本産業技術史』私家版

【参考図書】三輪修三　著『機械工学基礎コース　機械工学史』丸善株式会社刊

【準備学習】
テキスト・参考図書を熟読しておくこと。

【授業計画】
1 機械技術史を学ぶにあったて
2 工業技術博物館の見学・調査
3 古代の機械技術（古代中国）
4 古代の機械技術（古代ギリシャ・ローマ）
5 古代の機械技術（日本）
6 中世の機械技術（アジア）
7 中世の機械技術（ヨーロッパの技術）
8 工業技術博物館・特別展の見学・調査
9 ルネサンス期の機械技術（起源と概要）
10 ルネサンス期の機械技術（レオナルドの手稿）
11 ルネサンス期の機械技術（レオナルドの影響）
12 産業革命（イギリス・起源と概要）
13 産業革命（イギリス・機械の開発・改良）
14 近代日本の機械工学の導入と定着
15 機械工学の現在と未来

【備考】

倫理と技術－Ｊ（Ethics for Engineers-J）藪千秋

機械工学科 教養科目（環境系）実践機械工学プログラム
３年 秋学期２単位（週１時限）選択必修科目

【授業の目標】
技術は文明の基盤であるが、同時に人類の幸福に貢献するものでなければならない。技術者は、技術とその成果の社会にもたらす影響がきわめて大きいことを常に意識して、技術を正しく用い、向上させる責務を負う。正しい技術の遂行には、技術者自らが法規範に従うだけでない高い倫理を持つこと、また予想外も生じることに対して畏怖の念を持つことが必要となる。市民として備えるべき倫理学の基礎および技術者として備えるべき倫理を学び、身につけることを目標とする。

【成績評価】課題報告40%、期末試験60%として、60点以上を合格とする。

【テキスト】
適宜プリントを配布する。

【参考図書】

【準備学習】
日々の新聞記事（産業、経済関連）になるべく触れることが好ましい。

【授業計画】
1 倫理と技術の関わり
2 倫理思想概論（1）善の概念
3 倫理思想概論（2）法と正義
4 倫理思想概論（3）宗教と社会規範
5 技術科学と倫理（1）文明と技術
6 技術科学と倫理（2）文明と科学
7 技術科学と倫理（3）人工物の光と影
8 技術科学と倫理（4）物質的繁栄と負の生産
9 技術科学と倫理（5）人的および地球的環境負荷
10 技術者論（1）使命と地位
11 技術者論（2）企業と技術者
12 技術者論（3）技術者組織ととり得る行動
13 技術者論（4）技術者の良心と設計・生産責任
14 技術者論（5）事故対処事例、明日の技術の構築姿勢
15 今なぜ技術者に倫理が求められるのか

【備考】

資源環境論－Ｊ（Resource and Ecology-J）江上保吉

機械工学科 教養科目（環境系）実践機械工学プログラム
４年 春学期２単位（週１時限）選択必修科目

【授業の目標】
「天然資源を抽出し様々のプロセスで製品化する」システムにおける巧みなものづくり技術は、長い間、地域社会に豊かさを作り出すという正の面で評価されてきた。ところが、近年、鉱物資源の枯渇の危険がある、製造・生産活動が環境汚染を引き起こしているなど、負の面も認識されてきた。技術は文明の進歩と人類の福祉に、永遠に貢献できるものでなければならない。それに貢献できるように地球市民技術者として取るべき正しい技術姿勢を身につけることを目標とする。

【成績評価】課題報告40%、期末試験60%として、60点以上を合格とする。

【テキスト】
適宜プリントを配布する。

【参考図書】

【準備学習】
日々の新聞記事（産業、経済関連）になるべく触れることが好ましい。

【授業計画】
1 文明の進歩と資源、環境
2 資源の分類と探査（1）エネルギー需要の動向
3 資源の分類と探査（2）化石エネルギー資源の動向
4 資源の分類と探査（3）電力と鉱物資源の確保
5 資源の分類と探査（4）水･食料の確保と生物多様性
6 資源地理学（1）日本の資源
7 資源地理学（2）資源の偏在とナショナリズム
8 資源地理学（3）エネルギー安全保障
9 製造・生産活動と地球環境（1）地球環境の変化
10 製造・生産活動と地球環境（2）次世代エネルギー
11 製造・生産活動と地球環境（3）自動車市場の動向
12 人工物と地球環境（1）公害問題と対策
13 人工物と地球環境（2）循環型社会を目指して
14 人工物と地球環境（3）COP、EMSとCO2削減の試み
15 資源・環境の保全に係る地球社会の取り組み

【備考】
授業に関する質問は、授業の前後で対応します。

健康科学ーＪ（Health Science-J）城戸卓男

機械工学科 教養科目（保健体育系）実践機械工学プログラム
２年 秋学期２単位（週１時限）必修科目

【授業の目標】
健康は単にその個人だけでなく、家族、集団および社会にとっても大切である。健康の保持や増進のために最も大切なことは、個人の意思による自己管理である。健康科学理論の重要事項を理解し、実践に必要な基礎的知識を習得して、将来にわたり心身健康で活動的な生活ができる素地を培う。健康の意義、生活習慣病やストレスの要因等についての知識、体力の概念、体力向上方法、身体運動のメカニズム、スポーツ障害の予防などを学ぶ。

【成績評価】
期末試験(100点)で60点以上を合格とする。

【テキスト】
適宜プリントを配布する。

【参考図書】
必要に応じて紹介する。

【準備学習】授業で配布したプリントの空欄を埋めて、持参する事。次回の授業内容について説明するので、予習するとともに質問を考えておく事。

【授業計画】
1 健康の概念
2 酒と健康
3 寿命と健康
4 食生活と健康
5 生活習慣病の予防法
6 アスリートの栄養の摂り方
7 消化器の構造と機能
8 骨格と筋肉の構造
9 感染症の予防
10 ストレスと心身の健康
11 体力の概念
12 トレーニングの原則論
13 トレーニングの方法と生理的効果
14 運動と疲労
15 スポーツ傷害と予防法（AEDの講習）

【備考】

スポーツ科学ーＪ（Sports-J）中島克典

機械工学科 教養科目（保健体育系）実践機械工学プログラム
２年 春学期２単位（週１時限）必修科目

【授業の目標】
スポーツ科学の実践科目は、学生の心身の発達を促し豊かな学生生活や将来の社会生活の基礎をつくることにある。スポーツ教育を通してコミュニケーションや体力の保持増進、技能の向上を目指し、生涯にわたって健康な人生を築くために学習する。

【成績評価】個人プレイおよび連携プレイについて評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

【テキスト】

【参考図書】

【準備学習】規則の理解に勉め各自の達成目標を設定して講義に望むことが望ましい。安全に、存分にからだを動かすための準備してください。

【授業計画】
1 スポーツ種目に関する説明
2 基礎技術の個人的説明（個人技術）
3 基礎技術の個人的習得（個人技術）
4 基礎技術とルールの説明
5 基礎技術とゲームの説明
6 基礎技術と応用技術の説明
7 ゲームとチームプレーの説明
8 ゲームとチームプレーの技術
9 ゲームの役割（ポジション）
10 ゲームの作戦（ポジション）
11 ゲームの向上と技術（作戦）
12 ゲームの総合技術（作戦）
13 ゲームの総合技術（総合評価）
14 個人の技術とゲームの技術（総合評価・実技試験）
15 個人の技術習得とゲームの技術習得（総合評価）

【備考】
日頃から体調管理に気をつけ、授業に参加してください。

総合英語Ⅰ－Ｊ（Comprehensive English I-J）市川泰弘

機械工学科 教養科目（言語系）実践機械工学プログラム
2年 春学期2単位（週1時限）必修科目

【授業の目標】
英語は、国際的に最も多用される言語であり、その読み書き会話は社会人に必要な素養になっている。他国の文化や伝統を学ぶためにも、また我が国の文化、伝統または技術を伝えるためにも、これに親しんでおく必要がある。
本講では、主にアメリカの生活でよく見られる状況を、テキスト、その他視聴覚機器を用いて知り、また演習を交えながら、必要とされる英文法および英文解釈力の基礎を、総合的に身につける。

【成績評価】中間試験(50点)、期末試験(50点)で60点以上を合格とする。

【テキスト】Robert Hickling, Yasuhiro Ichikawa著『Get Reading!』金星堂(2008)

【参考図書】

【準備学習】事前に英文の内容を辞書を引きながら日本語に直し、単語の意味をノート等にまとめ、そのノートを参考に学習できるようにしてください。

【授業計画】
1 Balancing Studies and a PT Job 命令文
2 The Magic of Disney 過去時制
3 Water, Please 現在時制
4 演習1
5 Convenience Stores 名詞
6 Japanese Loan Words 代名詞
7 Cherry Blossoms in Japan 形容詞と副詞
8 演習2
9 Diet and Health 比較級と最上級
10 Sensory Branding 状態動詞
11 Time to Take a Nap 助動詞
12 Artificial Intelligence 未来時制
13 Campus Life in the U.S. 動名詞と不定詞
14 演習3
15 総合演習

【備考】
授業には毎回英和辞書を必ず持参すること。

総合英語Ⅱ－Ｊ（Comprehensive English Ⅱ -J）市川泰弘

機械工学科 教養科目（言語系）実践機械工学プログラム
2年 秋学期2単位（週1時限）必修科目

【授業の目標】
英語は、国際的に最も多用される言語であり、その読み書き会話は社会人に必要な素養になっている。他国の文化や伝統を学ぶためにも、また我が国の文化、伝統または技術を伝えるためにも、これに親しんでおく必要がある。本講では、主にアメリカの生活でよく見られる状況を、テキスト、その他視聴覚機器を用いて知り、また演習を交えながら、総合英語Ⅰで学んだ基礎の上に、さらに英文法を確認しながら、必要とされる英文解釈力の向上を図る。

【成績評価】中間試験(50点)、期末試験(50点)で60点以上を合格とする。

【テキスト】Robert Hickling, Yasuhiro Ichikawa著『Get Reading!』金星堂(2008)

【参考図書】

【準備学習】事前に英文の内容を辞書を引きながら日本語に直し、単語の意味をノート等にまとめ、そのノートを参考に学習できるようにしてください。

【授業計画】
1 The Incans 受動態
2 Cosmetic Surgery 現在進行形
3 Great Inventions 過去進行形
4 演習1
5 The Titanic 過去時制と否定
6 Brain Training 現在完了
7 Making Sense of Numbers 同等比較
8 演習2
9 Pickpockets 前置詞（場所と移動）
10 Panda Facts 前置詞と副詞
11 Women in Society 関係詞
12 Why Do We Lie? 副詞節
13 Earthquakes 数を表す表現
14 演習3
15 総合演習

【備考】
授業には毎回英和辞書を必ず持参すること。

総合英語Ⅲ－Ｊ（Comprehensive English Ⅲ -J）川上省三

機械工学科 教養科目（言語系）実践機械工学プログラム
3年 春学期2単位（週1時限）必修科目

【授業の目標】
英語は、国際的に最も多用される言語であり、その読み書き会話は社会人に必要な要素となっている。また我が国の文化、伝統または技術を伝えるためにも、これに親しんでおく必要がある。
この講義ではさまざまなジャンルの英文に触れ、また会話表現とライティングでの表現の違いを理解しながら、英作文および英語会話の基礎力を身につけることを目的とする。

【成績評価】小テスト33％、中間試験（2回分）43％、期末試験24％

【テキスト】Y.Ichikawa, P.Serafin著『Get It Write: Developing Writing Skill for Correct and Logical English』 桐原書店

【参考図書】

【準備学習】作文のポイントはそれぞれの構文や単語の意味をまとめておくことです。事前にわからなかった表現をノート等にまとめておくようにしてください。

【授業計画】
1 基礎的な動詞の使い方(1) takeなど
2 パラグラフの基本
3 基礎的な動詞の使い方(2) breakなど
4 時間軸でのパラグラフ構成
5 英会話演習(1) 挨拶・紹介の表現
6 動詞＋名詞句の使い方(1) have funなど
7 重要度の軸でのパラグラフ構成
8 動詞＋名詞句の使い方(2) take teaなど
9 空間秩序でのパラグラフ構成
10 英会話演習(2) 予定に関わる表現
11 間違いやすい動詞の使い方(1) acceptなど
12 メインアイディアを補う：個人的経験の利用
13 間違いやすい動詞の使い方(2) achieveなど
14 メインアイディアを補う：事実と引用の利用
15 英会話演習(3) 総合演習

【備考】
授業には毎回英和辞書を必ず持参すること。

総合英語Ⅳ－Ｊ（Comprehensive English Ⅳ -J）川上省三

機械工学科 教養科目（言語系）実践機械工学プログラム
３年 秋学期２単位（週１時限）選択必修科目

【授業の目標】
英語は、国際的に最も多用される言語であり、その読み書き会話は社会人に必要な要素となっている。また我が国の文化、伝統または技術を伝えるためにも、これに親しんでおく必要がある。
この講義ではさまざまなジャンルの英文に触れ、英作文力を向上させ、コミュニケーション能力をさらに高めることを目的とする。

【成績評価】小テスト33％、中間試験（2回分）43％、期末試験24％

【テキスト】Y.Ichikawa, P.Serafin著『Get It Write: Developing Writing Skill for Correct and Logical English』 桐原書店

【参考図書】

【準備学習】作文のポイントはそれぞれの構文や単語の意味をまとめておくことです。事前にわからなかった表現をノート等にまとめておくようにしてください。

【授業計画】
1 間違いやすい名詞の使い方(1) advanteageなど
2 パラグラフ：過程と順序
3 間違いやすい名詞の使い方(2) habitなど
4 パラグラフ：人や物の描写
5 英会話演習 (1)　説明に関わる表現
6 間違いやすい形容詞の使い方(1) exhaustingなど
7 パラグラフ：主張の記述と展開
8 間違いやすい形容詞の使い方(2) effective
9 パラグラフ：比較と対照
10 英会話演習(2) プレゼンテーションの表現
11 間違いやすい副詞の使い方 alternativelyなど
12 パラグラフ：原因と結果
13 その他の間違いやすい表現 up toなど
14 私信とビジネスレターの書き方
15 英会話演習(3)　総合演習

【備考】
授業には毎回英和辞書を必ず持参すること。

カナダ英語研修 －Ｊ（English and Culture Program in Canada-J）英語教員

機械工学科 教養科目（言語系）実践機械工学プログラム
２～４年 秋学期２単位（集中講義）選択必修科目

【授業の目標】
主に英語が日常用いられている地域において、現地の人々に触れ、異文化の相互理解を深めるとともに、国際的な技術者となりうる姿勢と英語力を身につけることを目的とする。英語研修はバンクーバー（カナダ）にあるブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)で行い、研修中はカナダ人家庭にホームステイする。授業以外にも課外活動のなかで英語を使う機会が設けられている。研修終了時には、出席・参加・到達度の状況と会話・聴解力について評価される。帰国後はお礼の手紙の作成などの指導も行う。

【成績評価】小テスト(30点)、研修の成績（UBC認定）(60点)、帰国後テスト(10点)で60点以上を合格とする。

【テキスト】
担当教員が教室にて配布する。

【参考図書】

【準備学習】
海外留学について調べておくこと。

【授業計画】
1 カナダの歴史と現代文化を英語で読む
2 現地情報（英語）収集法：英語サイトの利用・内容の理解
3 自己紹介の英会話・導入、練習
4 ホームステイ申込書（英語）作成
5 現地情報（英語）の発表：バンクーバー
6 UBCでの授業（異文化コミュニケーション）
7 UBCでの授業（カナダ社会での生活）
8 UBCでの授業(World Community)
9 UBCでの授業（気候変化）
10 UBCでの授業（雇用について）
11 UBCでの授業(グローバル化)
12 UBCでの授業（環境問題）
13 UBCでの授業（メディアと技術）
14 UBCでの授業（食料政策）
15 UBCでの授業（技術と社会）

【備考】
UBC英語研修の日程および参加費用については、研修の手引を参照すること。

中国語総合－Ｊ（Chinese-J）呉志良

機械工学科 教養科目（言語系）実践機械工学プログラム
４年 秋学期２単位（週１時限）選択必修科目

【授業の目標】
中国語によるコミュニケーション能力を養成する。教材などにより、中国の生活、文化などの基本知識を知り、異文化を捉える視点を獲得し、中国語の文章構成を理解し、簡単な会話ができる程度の能力を得る。

【成績評価】期末試験(70点)、レポート(30点)で60点以上を合格とする。

【テキスト】小川郁夫著『中国語ファーストステップ』白帝社(1999)

【参考図書】

【準備学習】
単語を辞書で調べておくこと。

【授業計画】
1 中国語の特徴
2 自己紹介と挨拶
3 簡体字と声調
4 軽声と子音
5 鼻濁音と母音
6 無気音と有気音
7 形容詞文
8 動詞文
9 名前の尋ね方
10「是」を用いる肯定文
11 全部否定と部分否定文
12 月日と曜日の尋ね方
13 時刻の尋ね方
14 数詞と量詞
15 時間と数・量詞のまとめ

【備考】
積極的に授業に参加してください。